

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

2021年度

活動報告書



ごあいさつ

本事業は、2019年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択を受け、2019～2024年度の6年間の事業期間で開始しました。今年度は、事業開始3年目を迎え、文部科学省への中間評価成果報告書の提出、ヒアリング審査が行われました。その結果、総合評価A（目標達成度 b、取組 a、取組の成果 b、実施体制 a、今後の進め方 a）という高い評価を得ることができました。

事業実施にあたり、連携機関である室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社によって設置した「北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議」を核に、各機関の業務担当者が具体的な取組について企画立案を行う「業務担当者会議」での丁寧な議論を通じて、連携を深めてまいりました。課題や改善策を共有することで各連携機関での女性活躍促進へ向けた機運が高まり、大学における女性限定公募の実施、上位職昇任を推進するポジティブアクションなど、各機関の積極的な取組を後押しすることができたと考えております。

具体的な取組の成果としては、特に、女性研究者を代表者とする「女性研究者リーダー育成共同研究助成（KNIT 共同研究助成）」によって2年間で合計 27 件の共同研究に対する助成を実施し、研究業績およびリーダーシップを向上することができました。また、これらの新たな共同研究の中から、さらに、研究交流会やシンポジウムを通じた異分野や地域への波及を目指す取組も生まれるなど、連携の成果が発展しつつあります。

今後、事業期間後半の3年間においては、これまでの連携の体制と取組を継続するのみならず、成果を発展させ、ダイバーシティ推進による多様な人材の活躍と地域活性化を目指して活動を広げてまいります。

本事業は、連携機関、協力機関をはじめ多くの関係の皆様のご理解とご協力により実施しております。皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、今後も一層のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



北海道大学 理事・副学長
北海道ダイバーシティ研究環境
推進ネットワーク会議長

山口 淳二



北海道大学
ダイバーシティ研究環境推進室長

矢野 理香

もくじ

I. 事業概要と実施体制

事業概要・	2
実施体制・	2

II. 2021年度取組

2021年度実施内容一覧・	6
ダイバーシティ研究環境整備のための取組・	9
研究力向上・リーダー育成のための取組・	35
上位職への積極的登用に向けた取組・	48
女性研究者の裾野拡大に向けた取組・その他・	55

Ⅰ．事業概要と実施体制

事業概要

事業の名称

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

事業の概要

本事業では、北海道内外の大学と企業が連携し、多様な研究人材の活躍による地域活性化に向けて、研究環境の更なる改善と意識改革、キャリアアップと自立に向けた支援、女性リーダー、女性上位職・管理職の増加など、多くの取組を展開している。連携機関の共通の課題を可視化し、研究と組織変革をリードする「イノベーションコア人材（研究リーダー人材＋大学マネジメント人材）」の育成に向けて取り組む。

共同機関と連携し、女性研究者を含む多様な研究者が能力を発揮できる研究環境の更なる整備、多様なリーダー育成と登用、組織の意識改革等の取組への理解浸透を図りネットワークを構築する活動を行っている。

実施体制

連携の体制

北海道内の6つの連携機関によって「北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）」推進会議を設置（事務局：北海道大学）した。KNIT推進会議において取組の方針や方向性を決定し、具体的な内容については業務担当者会議にて決定する2段階の体制を構築し、効率的に事業を進めた。オンライン会議を積極的に利用し、業務担当者会議において実務者レベルでの情報交換を緊密に行うことで知見やノウハウを共有し、KNIT全体の取組の波及につなげた。また、北海道地域全体に取組を波及させるために協力機関の仕組みを整えた。2022年3月現在、協力機関数は12機関あり、そのうちの4機関は連携機関からの推薦によって参画している。さらに、本事業推進の目標達成に向けたアドバイスや取組へのフィードバックを得るために、日本の女性研究者活躍推進の取組を牽引してきた有識者や産業界メンバー等を委員とする「アドバイザリーボード」を設置した。

連携機関間で、セミナー等の相互配信の基盤を構築し、全国の先進事例や大学の在り方について考える勉強会等を協力して実施している。その結果、各機関での意識醸成が進み、大学での女性限定公募の実施などの意思決定につなげた。

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）

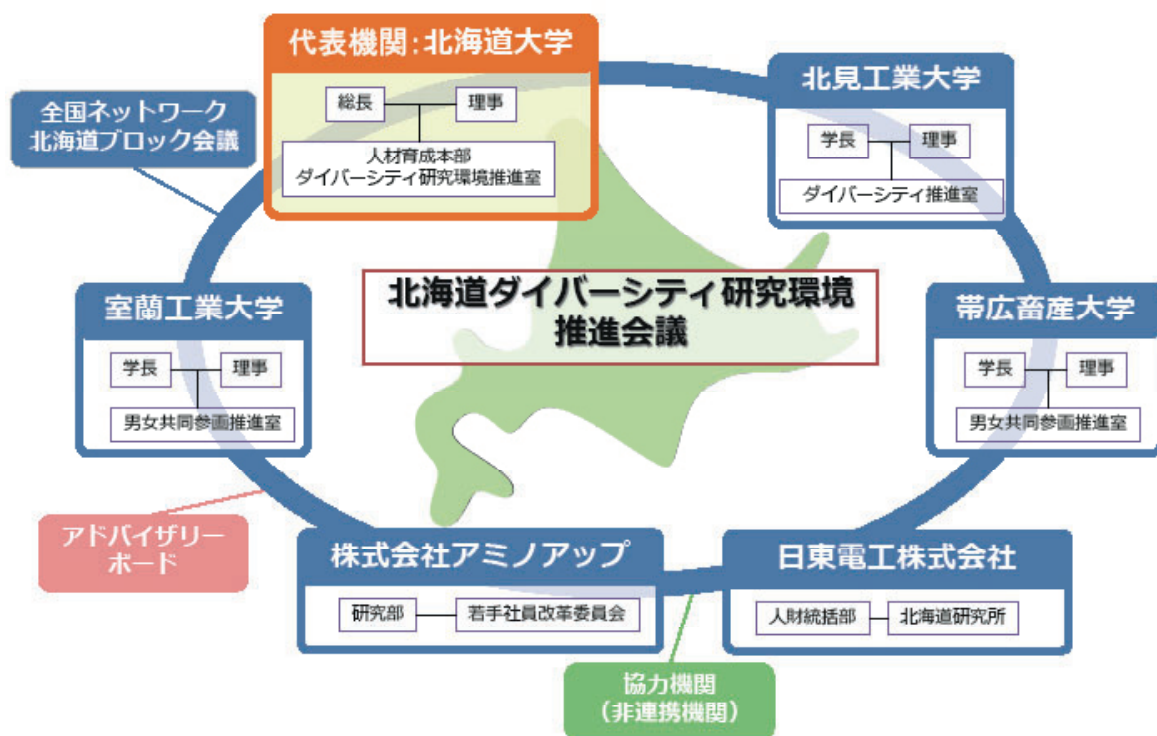
<連携機関>

北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、
日東電工株式会社

＜協力機関＞

株式会社スペースタイム、株式会社化合物安全性研究所、北海道システム・サイエンス株式会社、雪印種苗株式会社、株式会社山本忠信商店、公益財団法人とかち財団、公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）、株式会社ユニアル、国立大学法人小樽商科大学、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会市民参画課 札幌市男女共同参画センター、株式会社エヌビー健康研究所、遠友ファーマ株式会社（2022年3月1日現在）

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク



II. 2021年度取組

2021年度実施内容一覧

実施月日	実施内容
4月1日	【室蘭工業大学】令和3年度ライフイベント期にある研究者への支援開始
4月1日	【北見工業大学】令和3年度ライフイベント期にある研究者への支援開始
4月1日	【室蘭工業大学】女性研究者3名（講師1名、博士研究員2名）を採用
4月21日	【北海道大学】「女性研究者による研究会等開催支援」および「ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等による取組支援」募集開始
4月27日	令和3年度 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第1回業務担当者会議」開催：2021年度KNIT共同研究助成の研究計画変更の審議（メール会議）
5月1日	【帯広畜産大学】女性研究者1名（助教）を採用
5月10日	【北海道大学】「復帰支援プログラム：投稿論文の英文校閲費助成」および「上位職を目指す女性研究者のためのメンタリング・シャドウイング研修支援」募集開始
5月17日	令和3年度 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第2回業務担当者会議」開催（オンライン）
5月26日	【北海道大学】「ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等による取組支援プログラム」による「北海道大学FD・SDセミナー」（主催：大学院水産科学研究院）開催（オンライン）
5月27日	【北見工業大学】次世代研究者のための講演会開催
5月27日	KNIT a Network！ロールモデル座談会「2020年度 大塚賞スペシャル 第1回」開催（オンライン）
6月1日	【帯広畜産大学】女性研究者1名（助教）が准教授に昇任
6月1日	【室蘭工業大学】女性研究者1名（准教授）が教授に昇任
6月3日	KNIT a Network！ロールモデル座談会「2020年度 大塚賞スペシャル 第2回」開催（オンライン）
6月24日	令和3年度 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第3回業務担当者会議」開催（オンライン）
6月24日、7月7日	【株式会社アミノアップ・北海道大学】KNIT a Network！ロールモデル紹介番組 打合せ（オンライン）
7月1日	【日東電工株式会社】D&I推進部を設置
7月1日	【室蘭工業大学】女性限定公募（助教1名）開始
7月7日、8日	【室蘭工業大学】英語論文セミナー「アクセプトへの第一歩！英語論文執筆のA to Z：英文校正のプロが具体的な注意点を解説」開催（オンライン）
7月12日	【北海道大学】令和3年度後期「研究活動とライフイベント両立のための補助人材支援」の公募開始 23名の教員への支援を決定
7月14日、30日	【日東電工株式会社・北海道大学】KNIT a Network！ロールモデル紹介番組 打合せ（オンライン）
7月15日	【北海道大学】「ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等による取組支援プログラム」による「北海道大学FD・SDセミナー」（主催：大学院獣医学研究院）開催（オンライン）
7月17日	【北海道大学】「女性研究者による研究会等開催支援」によるシンポジウム「多頭飼育問題について考える」開催（ハイブリッド）
7月29日	KNIT a Network！ロールモデル紹介番組「企業での研究生活といるキャリア～北海道で研究開発する株式会社アミノアップ編～」開催（オンライン）
7月31日、8月1日、21日	【北見工業大学】オープンキャンパスリケジョFESTA実施
8月5日	北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク 兼 全国ダイバーシティネットワーク北海道ブロック勉強会「研究環境におけるジェンダーダイバーシティエルゼビアのレポートと取り組みからみる今後の可能性」開催（オンライン）

実施月日	実施内容
8月6日	令和3年度 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第4回業務担当者会議」開催:2021年度 KNIT共同研究助成の研究計画変更・予算計画変更届の審議(メール会議)
8月6日	【室蘭工業大学】女性限定公募(准教授または助教2名)開始
8月18日	令和3年度 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第5回業務担当者会議」開催(オンライン)
8月26日	KNIT a Network! ロールモデル紹介番組「企業での研究生活といろいろなキャリア～多様な拠点で事業を展開する日東電工株式会社編～」開催(オンライン)
8月31日	【北見工業大学】ダイバーシティに関するFD講演会開催
9月9日	【北見工業大学】令和3年度第1回ダイバーシティ推進室会議
9月13日～ 10月3日	オンライン研究交流イベント「異分野meetup 2021」開催 期間中に4研究サロン、KNIT共同研究助成採択チームによるポスター掲示・交流会、各連携機関主催のダイバーシティに関連するセミナーや座談会を実施
9月13日～ 10月3日	【帯広畜産大学】異分野meetup 2021期間中に男女共同参画推進室セミナー「パパからパパへのメッセージ～若手教員編・ベテラン教員編～」をウェブ配信(オンライン)(視聴者数のべ38名)
9月13日	【室蘭工業大学】「教職員のためのダイバーシティセミナー2021『家族から考える男女平等参画ー男性の育児・家事と女性の就労に注目してー』」開催(オンライン)
9月15日	【北見工業大学】「ライフイベント期にある教員への支援制度の紹介」開催(オンライン)
9月16日	KNIT a Network! 研究者座談会「意外とやってる!?男性の家事、育児」開催(オンライン)
9月27日、29日	2021年度KNIT共同研究助成採択者交流会
9月28日	女性研究者対象セミナー「PIを目指す女性研究者のための『Leadership Development Training Program(全4回)』」第1回開催
9月30日	【北見工業大学】ダイバーシティ事業推進に係る役員と女性教員等の懇談会開催
10月1日	【室蘭工業大学】女性研究者1名(博士研究員1名)を採用
10月18日	令和3年度 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第6回業務担当者会議」開催(オンライン)
10月19日	女性研究者対象セミナー「PIを目指す女性研究者のための『Leadership Development Training Program(全4回)』」第2回開催
10月21日	KNIT a Network! ロールモデル紹介番組「海外で迎えるライフイベントー海外で出産、子育て、家族で海外へ引越し。住むところは日本だけではないのだ!!ー」開催(オンライン)
11月9日	女性研究者対象セミナー「PIを目指す女性研究者のための『Leadership Development Training Program(全4回)』」第3回開催
11月10日、17日、 22日、12月1日	【北海道大学・北見工業大学】「ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等による取組支援プログラム」による「Brown Bag Lunch (BBL)ミーティング」(主催:大学院メディアコミュニケーション研究院)開催(オンライン)
11月16日	【株式会社アミノアップ】北海道大学「第47回赤い糸」に参加
11月17日	【室蘭工業大学】ダイバーシティ通信第14号(2021年11月)発行
11月18日	北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「アドバイザリーボード」開催(オンライン)
11月29日、30日	【株式会社アミノアップ】女性研究員と会社トップ(社長)との個別面談を実施
11月30日	女性研究者対象セミナー「PIを目指す女性研究者のための『Leadership Development Training Program(全4回)』」第4回開催

実施月日	実施内容
12月1日	【北海道大学】北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言公表
12月2日	【北海道大学】「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」発表記者会見開催
12月2日	KNIT a Network! ロールモデル紹介番組「学んで働いてまた学ぶ。一社会に出てからの大学院進学ー」開催(オンライン)
12月2日	【北見工業大学】令和4年度ライフイベント期にある研究者への支援募集開始
12月10日	【北海道大学】北海道大学D&I宣言制定記念講演会①「大学と民族」開催(ハイブリッド)
12月16日	【北海道大学】北海道大学D&I宣言制定記念講演会②「大学とユニバーサルキャンパスデザイン」開催(オンライン)
12月20日	【北海道大学】北海道大学D&I宣言制定記念講演会③「大学とセクシュアリティ」開催(オンライン)
12月22日	【北海道大学】北海道大学D&I宣言制定記念講演会④「大学とジェンダー」開催(オンライン)
1月12日	【日東電工株式会社】1day workshop(女性限定)を開催(オンライン)
1月15日、16日	【北海道大学】大学入学共通テスト時の一時保育支援実施 3名の教職員が利用
1月19日	【北海道大学】令和4年度前期「研究活動とライフイベント両立のための補助人材支援」の公募開始
1月21日	【室蘭工業大学】女子学生を対象とした「キャリア形成のためのランチタイムセミナー第15回」開催(オンライン)
1月22日	【北海道大学】「女性研究者による研究会等開催支援」による「スポーツ医学セミナー～女性アスリート特有の健康問題と医学的サポート～」開催(オンライン)
1月27日	【北見工業大学】令和3年度第2回ダイバーシティ推進室会議開催
1月29日	【北海道大学・室蘭工業大学・北見工業大学】「女性研究者による研究会等開催支援」による第1回北海道地域日本語教育シンポジウム 『『もやもや』を持ち寄ろう! アイディアを持ち帰ろう』(主催:KNIT共同研究助成チーム) 開催(オンライン)
2月4日	北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークシンポジウム「多様性を武器にこれからの不確実な時代を生き抜くには～ステークホルダーからのメッセージ～」開催(オンライン)
2月24日	【帯広畜産大学】女性研究職の上位職登用に向けた理事との懇談会を実施
2月28日	令和3年度 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第7回業務担当者会議」開催(オンライン)
3月8日	【北海道大学】次世代リーダーシップ研究者「円卓会議」(京都大学L-INSIGHTと共催) 開催(オンライン)
	【帯広畜産大学】9名の研究者に研究支援員を配置
	【帯広畜産大学】10名の研究者に研究支援員配置(後期10～3月分)
	【帯広畜産大学】学内セミナー「パパからパパへのメッセージ」を配信(視聴者数のべ104名)

ダイバーシティ研究環境整備のための取組

連携機関全体の取組

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク 業務担当者会議の実施

業務担当者会議は、各連携機関と連携して、担当教員等が事業企画・実施するための情報共有や検討をするためのコミュニケーションを目的としている。1 か月～2 か月に1 回の頻度で、緊密な情報交換を連携機関全体で実施している。こうした背景により、北海道の各地域に拠点を構える連携機関のダイバーシティに関する状況や取組を互いに知り、KNIT 全体の研究環境の向上に取り組んでいる。

2021 年度は以下の通り、7 回の業務担当者会議を実施した（メール開催およびオンライン開催、2022 年2 月現在）。

< 開催記録 >

実施日	議題
4月27日	・2021年度KNIT研究助成(研究計画変更届)承認審議
5月17日	・2021年度KNIT共同研究助成(採択通知・今後のスケジュール確認)について ・2020年度KNIT共同研究助成報告書について ・2021年度スケジュール(アドバイザリーボード、中間総括シンポジウム、異分野交流イベント開催概要、KNIT勉強会)について ・中間評価成果報告書作成について
6月24日	・2021年度スケジュールおよび開催概要(アドバイザリーボード、異分野交流イベント、KNIT勉強会テーマ)について ・中間評価成果報告書進捗共有
8月6日	・KNIT共同研究助成(研究計画変更・予算計画変更届)承認審議
8月18日	・異分野交流イベントの開催企画詳細(“異分野meetup2021”開催決定) ・2021年度KNIT共同研究助成(予算計画変更届)承認審議 ・KNIT中間総括シンポジウム開催概要進捗共有
10月18日	・異分野meetup2021振り返り ・アドバイザリーボードについて ・KNITシンポジウム日程調整について ・2021年度KNIT活動報告書作成について
2月28日	・経過報告:2021年度KNIT活動報告書の作成状況について ・報告:リプロダクティブヘルス/ライツをテーマとした冊子作成について ・次年度の各機関体制について情報共有 ・R4年度以降のKNITとしての活動について ・R3年度3月の推進会議開催について

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク 兼 全国ダイバーシティネットワーク北海道ブロック勉強会の実施

女性研究者を含む多様な研究者が能力を発揮できる研究環境の整備、多様なリーダー育成と登用、組織の意識改革等の取組への理解浸透を図りネットワークを構築する活動の一環として勉強会を開催した。

- **名称** 「研究環境におけるジェンダーダイバーシティ
ーエルゼビアのレポートと取り組みからみる今後の可能性ー」
- **日時** 2021年8月3日 14:30～15:30
- **対象者** KNIT連携機関
全国ダイバーシティネットワーク北海道
ブロック参画機関、KNIT 協力機関に所属する方
- **場所** オンライン：Zoom
- **参加者数** 20名
- **講演者** エルゼビア・ジャパン株式会社
カスタマー・コンサルタント
井上 淳也 氏

活動内容・報告

本勉強会では、エルゼビア社より公表されたジェンダー・レポートに基づき、研究への参加状況や業績、キャリアに関するジェンダー差について結果が示された。加えて、同社のジェンダー課題に関わる目的と取組について、データを元にした講演により、組織としての有り様など多くの示唆をいただいた。講演後の質疑応答では、参加者からはデータに関する様々な質問があり、関心の高さが伺えた。さらに、同社の石崎悠里さんからも豊富な関連情報の提供があった。

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク(KNIT) 兼 全国ダイバーシティネットワーク北海道ブロック勉強会

研究環境におけるジェンダーダイバーシティ

ーエルゼビアのレポートと取り組みからみる今後の可能性ー

講師にエルゼビア・ジャパン株式会社 カスタマー・コンサルタント 井上淳也氏をお招きします。エルゼビア社より2020年に公表された学術研究論文に関するジェンダー分析「The Researcher Journey Through a Gender Lens」の結果をご紹介いただきます。

研究への参加状況や業績、キャリアに関するジェンダー差について結果をご説明しただけでなく、学術ジャーナル出版であるエルゼビア社がジェンダーの課題に取り組む理由や具体例についてもお話しいただきます。 ※セミナーは日本語で行われます。

講師 井上 淳也 氏 エルゼビア・ジャパン株式会社 カスタマー・コンサルタント

日時 8/3 (火) 14:30-15:30
オンラインで開催します!

対象 北海道大学及びKNIT連携機関※に所属する教職員・研究員等

開催方法 Zoomを使用したオンラインセミナー

申込 詳細・お申し込みはこちらから!
<https://bit.ly/3d0AE4T>

締切 8/2(月) 12:00

※KNIT連携機関
北海道大学、東北道大、北道大、札幌大、旭川大、帯広大、苫小牧大、釧路大、青森大、弘前大、山形大、秋田大、岩手大、宮城大、福島大、茨城大、栃木大、群馬大、埼玉県大、千葉県大、東京都大、神奈川県大、新潟大、富山大、石川大、福井大、山梨大、長野大、岐阜大、愛知県大、三重県大、滋賀県大、京都府大、大阪府大、兵庫県大、奈良県大、和歌山県大、徳島県大、高松市大、愛媛県大、高知県大、福岡県大、佐賀県大、大分県大、熊本県大、鹿児島県大、沖縄県大

北海道大学人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室
Promotion office of Research environment for Diversity
<https://res.kyofor.hokudai.ac.jp/>

KNIT

ELSEVIER

参加者の声

- ・マスメディアなどの情報でもよく言われているが、やはりデータ通りジェンダー差があることがよくわかった。
- ・特許出願数や国際共同研究のデータなど、これまで見たことがなかったので興味深かった。
- ・研究者は男性が多いことは、半ば当たり前のような感覚になっていたが、研究者の性差の偏りが大きく、多様性が損なわれることは研究成果を得る観点から見ても、数字には出てこない社会的な機会損失でもあることに気づかされた。
- ・国際比較の中で日本の女性研究者の圧倒的な少なさ、伸び率の低さを図であらためて痛感した。



アドバイザーボード

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークでは、事業の目標達成に向けて、日本の女性研究者活躍推進の取組を牽引してきた有識者等によるアドバイスや取組に対するフィードバックをいただくために、「アドバイザーボード」を設置している。2021年度は11月18日にアドバイザーボードを開催した。

- 名称 アドバイザーボード
- 日時 2021年11月18日 9:30～11:30
- 場所 北海道大学百年記念会館大会議室 オンライン：Zoom
- アドバイザー 東北大学副学長、男女共同参画推進センター長 大隅 典子 氏
情報・システム研究機構長 藤井 良一 氏
北海道環境生活部 暮らし安全局長 田辺 きよみ 氏

活動内容・報告

大学や地域における男女共同参画の取組等に関して高い見識を有する3名のアドバイザーと、KNIT連携機関に参画する4大学、2企業から20名の出席があった。

はじめに、各共同実施機関から取組の進捗状況と課題について発表があった。

その後、アドバイザーの先生方より各機関の抱えている課題（女性研究者の採用や裾野拡大に関する課題、支援の広がりについての課題など）について、具体的な事例も交えながら、大変参考となる助言や情報提供をいただいた。

全体を通しての質疑応答・議論の時間でも、意見交換が活発に行われ、ダイバーシティ推進に向けた、良い示唆が得られた。

KNITでは、今回の議論を活かし、ネットワーク全体が協働して各機関の取組を共有・改善・強化し、発展を目指していきたいと考えている。



KNIT ニュースレター発行

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）の活動を広く周知するため、KNIT ニュースレターを発行している。2022年3月に発行したVol.3では、異分野 meetup2021、KNIT a Network! ロールモデル紹介番組の様子を掲載した。

KNIT ニュースレター VOL.03

NEWS 1: 3 度目となる異分野交流イベント、

異分野 meetup2021 をオンラインで開催しました！

NEWS 2: KNIT a Network! ロールモデル紹介番組

多彩なゲストを迎え、計 8 回オンライン配信しました。

KNIT ニュースレター VOL.03
2022年3月発行

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）では、2021年9月13日（月）～10月3日（日）の3週間に渡り「異分野 meetup2021」を開催しました。

開催期間は、KNIT 共同研究助成採択チームによる研究紹介や交流会、4つ（言語・生命科学・材料・農業経済）の研究領域をピックアップして語る研究サロン。各連携機関主催のダイバーシティに関するセミナーや啓発会も企画しました。

オンライン会場への参加登録者は 65 名、研究サロンの延べ参加者数は 67 名、共同研究助成採択チームによる交流会には延べ 37 名の研究者が参加しました。

共同研究助成採択チーム交流会参加者からは、「普段関わらない分野の方々の研究テーマについて多く聞くことができ、興味深い時間を過ごせた」、「他の研究者の研究の進め方や悩みが共有できた」等の声が寄せられました。

NEWS 1: 3 度目となる異分野交流イベント、異分野 meetup 2021 をオンラインで開催しました！

異分野meetup2021セミナー・サロン開催一覧

セミナー・イベント

9/15(月) 道庁工業大学主幹セミナー
「教員のためのダイバーシティセミナー 2021」
講師：石川 淳子（道庁産業振興課長）

9/15(金) 全道工業大学主幹セミナー
「ダイバーシティに関する教員への支援制度の紹介」
北海道大学ダイバーシティ推進室 室長 坂本 一弘、副室長 川村 みどり氏

9/16(土) KNIT a Network! 研究推進協議会
「意外とやってくる？ 男性の家事、育児」
道庁工業大学 ダイバーシティ推進室 室長 坂本 一弘、副室長 川村 みどり氏

9/27(月)・9/29(水) オンライン交流会
「KNIT 共同研究助成採択チーム交流会」
2021 年度 KNIT 共同研究助成採択チームの発表

＜Web公開記事＞

「研究シーズ集約財団」
KNIT の連携機関である北海道大学、道庁工業大学、道庁農業大学、道庁工科大学が協賛して、研究シーズ集約財団（記事）を公開し、KNIT Web 上で公開しています。ぜひご覧ください。 <https://bit.ly/3gkMj0b>

異分野 meetup2021 開催報告ページ
<https://bit.ly/3Bm699J>

NEWS 2: KNIT a Network! ロールモデル紹介番組
多彩なゲストを迎え、計 8 回オンライン配信しました。

2021 年度も、KNIT 連携機関に所属する研究者や大学運営スタッフをゲストに迎え、計 8 回のオンライン配信で 17 名のロールモデルを紹介しました。

今年は、多様なキャリアアップやライフスタイル、暮らしをテーマに、企業研究者や男性研究者の家事・育児の話、海外で子育てや研究生活についてゲストの経験を共有しました。

開催報告はこちらをご覧ください。
<https://bit.ly/3Bm699J>

開催日 テーマ

5/27 北海道大学大塚とらと大塚先生インタビュー
6/3 2020 年度北海道大学大塚賞受賞者インタビュー
7/29 企業での研究生活というキャリア
～北海道で研究開発する株式会社アミノアップ編～
8/26 企業での研究生活というキャリア
～多摩川流域で事業を展開する日本電気株式会社編～
9/16 研究者協議会「意外とやってくる？ 男性の家事、育児」
10/21 海外で迎えるライフイベント
～海外で出産、子育て、家族で海外へ引越し、住むところは日本だけではないの？～
12/2 学んで働いてまた学ぶ。一社会に広げてからの大学院進学

編集後記

ニュースレターを作成することは、原田に活動を取り戻す機会となり、改めて多くの方が KNIT の活動に参加して下さっていることを実感する機会でした。活動を通して働かれた方のつながりが、さらに拡大していくことを楽しみにしています。（スタッフ）2021 年度も様々なイベントがオンラインでの開催を準備されましたが、今期に紹介した異分野 meetup やロールモデル紹介番組を通して、オンラインと多くの方のつながりが広がることができました。ありがとうございました。（スタッフ）

KNIT ウェブサイト
<https://knit.synfonster.hokudai.ac.jp>

お問合せ

KNIT 事務局
（北海道大学 人財育成本部 ダイバーシティ推進課事務局）
〒060-0812 札幌市北区北 15 条 5 丁目 1-1
北海道大学中央図書館 8 階 808 号室
TEL 011-706-3825 Email: knit@synfonster.hokudai.ac.jp

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）シンポジウムの実施

事業３年目の中間総括として、KNIT シンポジウムを開催した。「新たな課題への解決策を見出すのは誰か？顕在化してこなかった課題を見出すのは誰か？」という課題背景のもと、ダイバーシティ研究環境を実現する上での重要なステークホルダーである、若手人材、企業、ジェンダー専門家と共に、D&I の意義および現状打破の手掛かりについて考えるシンポジウムである。

- **名称** KNIT シンポジウム「多様性を武器に
これからの不確実な時代を生き抜くには
～ステークホルダーからのメッセージ～」
- **日時** 2022 年 2 月 4 日 9:30～11:30
- **開催方法** オンライン：Zoom
- **参加者数** 130 名
- **講師** 塚原 月子 氏
株式会社カレイディスト代表取締役 /
G20 EMPOWER 日本共同代表
坪田 駆 氏
ダートマス大学タック経営大学院
丸山 昌子 氏
株式会社 JERA ビジネスサポート&ソリューション本部
ダイバーシティ&インクルージョン推進室長
田中 俊之 氏
大正大学心理社会学部准教授 / 内閣府男女共同参画推進連携会議有識者議員



活動内容・報告

ステークホルダーとして、①ダイバーシティ&インクルージョンを事業とする起業家②ミレニアル・Z 世代を代表する若手人材③世界規模の課題解決に挑む企業④男性の生き方／生きづらさを研究する男性学が専門の研究者、である 4 名の講演者にご講演いただいた。

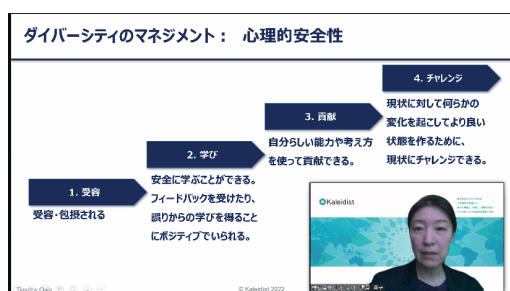
まず、基調講演として、株式会社カレイディスト 塚原 月子 氏より「ダイバーシティのビジネスケースとグローバル新潮流」と題し、ダイバーシティの本質やダイバーシティマネジメントの重要性についてご説明された。また日本の企業や組織が成果を上げるためには、計画策定や両立施策の整備、経営層のアカウンタビリティ、評価や基準への反映など組織構造的な課題に対応していくことが重要であるということ、データを元にお話いただいた。

続いて、ダートマス大学タック経営大学院 坪田 駆 氏より「米国ビジネススクールの実情にみる、ミレニアル・Z 世代の D&I 意識のリアルと企業・社会の変化に寄せる期待」と題し、アメリカ MBA（経営学修士）スクール生を目指したきっかけや、MBA生の立場から「(1) MBAの価値」「(2) MBA生の D & I の意識」「(3) 企業・社会への期待」について、現地でのエピソードを交えながらお話いただいた。

続いて、株式会社 JERA ビジネスサポート&ソリューション本部 丸山 昌子 氏より「エネルギー課題の解決に向け～ JERA のダイバーシティ&インクルージョン～」と題し、企業での D & I 推進、特に男性が多いエネルギー業界での女性活躍の推進について、重点的にお話いただいた。また、多様性が企業価値を高めるという認識の下、企業プログラムの優れた成果や取組についてご紹介された。

さらに、大正大学心理社会学部 田中 俊之 氏より「男性学の視点から誰にとっても生きやすい社会を考える」と題し、D&I 推進のフレーズが、異性間で結婚して子育てしている家庭を前提としており、独身の人、シングル家庭、同性カップル、D & I に理解のある職場環境で働けない人などの視点は考慮されていないゆえに、社会的に生じる苦痛や格差についても見落としてはいけないとお話いただき、「D & I を推進して行く上で当事者意識を持つためには、性別が自分の生き方に与えている影響を意識することが大事」とのメッセージをいただいた。

本シンポジウムでは、講演者それぞれの立場から D&I の推進や必要性について語っていただき、大変参考となる示唆が得られた。



株式会社カレイディスト 塚原 月子 氏



ダートマス大学タック経営大学院 坪田 駆 氏



株式会社 JERA 丸山 昌子 氏



大正大学 田中 俊之 氏

北海道大学の取組

古河講堂パープルライトアップ

北海道大学は内閣府の実施している「女性に対する暴力をなくす運動」に強く賛同しており、女性の人権尊重ならびにハラスメントや差別的言動に対する学内構成員の意識向上を図るため、その運動のシンボリックカラーの紫色で古河記念講堂をライトアップした。

- 日時 2021年11月12日、13日 17:00～20:30
- 場所 北海道大学古河記念講堂
- 主催 北海道大学人材育成本部
ダイバーシティ研究環境推進室

活動内容・報告

11月12日の点灯式では、本学山口 淳二 理事・副学長が挨拶で「多様性を尊重し女性への暴力をなくすことは大学として重要。解決に向けて考えていこう」と話した。山口理事・副学長、長谷山 美紀（男女共同参画・ダイバーシティ担当）副学長、大学院生の白井 那奈さんの点灯合図により古河記念講堂がパープルに彩られ、点灯式にご参加いただいた方々より拍手と歓声があがった。その後、白井さんはショートトークの中でデートDVの防止を訴えた。

両日ともに多くの学生や市民で賑わい、パンフレットやリーフレットにも関心を示して立ち止まる方が多く見かけられた。



北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言 / 発表記者会見

北海道大学では、人権尊重の観点から人間社会の基盤であるとともに「世界の課題解決に貢献する」大学として不可欠な「多様性と包摂」の理念について、学内構成員の理解を促進し、国際社会に向けて本学の決意を発信することを目的に、「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」を2021年12月1日に制定した。また、同時に特設 web サイトを開設し、PR 動画公開、リーフレット配布を行った。

さらに12月2日には、ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言の制定について、北海道大学寶金清博総長による記者会見を開催した。

なお学内においては、北海道大学憲章を制定し、すべての北海道大学人が実践すべき事柄を定めた「行動規範」を明文化している。ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言は、この行動規範の「人権と多様性の尊重」に連動し、国際社会に向けて本学の今後の決意を強く示すために発信するものである。

宣言制定に合わせ、次ページより後述する連続講演会の開催を含む「北海道大学がダイバーシティ&インクルージョンをちょっと考える6か月」と銘打った長期の学内向けキャンペーンを11月から実施しており、学生を含む様々な人がダイバーシティ&インクルージョンを考える機会を普段より多く提供している。



<記者会見開催履歴>

- **日時** 2021年12月2日 10:30～11:45
- **場所** 北海道大学百年記念会館
- **発表者**
 - 寶金 清博 北海道大学総長
 - 吉見 宏 北海道大学理事・副学長（広報室長）
 - 山口 淳二 北海道大学理事・副学長（人材育成本部長）
 - 長谷山 美紀 北海道大学副学長（男女共同参画・ダイバーシティ担当）
 - 矢野 理香 北海道大学教授（人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室長）

第20代 北海道大学総長
寶金 清博

ひとりひとりが誇りを持ち、 自らの可能性に挑戦できる 環境を目指して

21世紀を生きる私たちは世界と地域の特長可能な発展に寄与するために、北海道大学は多様な人々との共存と共生を基盤とした「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」を公表し、無意識の差別や偏見を乗り越えたバイアスフリーキャンパスの実現に向けて邁進します。

北海道大学 ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言

2015年、国連サミットで「誰一人取り残されない」ことをスローガンとした「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」が採択され、世界の課題解決に向けて国際社会が結束して取り組むことが必要であることが広く認識されました。その背景には、社会課題の多岐にわたる多様性の増大、人々の間で相互に理解を醸成し定着していることにあります。

北海道大学は、SDGs 採択に先立ち、2014年に創設150年に当たった近未来戦略150を策定し、「世界の課題解決に貢献する北海道大学」を新たな使命としました。そこには、総合大学としての強みと専門性を活かした「個性を伸ばす総合大学」を実現し、「知識の創成・伝播・実証の拠点」としての役割を担う大学の姿があります。すなわち、多様性を尊重しながら一歩前進する道程を通じて社会貢献を推進し、多様な社会を実現するために新しい価値を共に創り上げていくことを大学の姿と見做し、これを実践するたためには、多様な価値観や経験、意見が豊か、自由で公正かつ公平な議論に基づいた「多様性にひらかれ創成する（研究環境）」が不可欠です。

そのためには、すべての大学構成員ひとりひとりが、他者への理解を深め、自らの無意識の差別や偏見に気づき、多様性を尊重し包摂する豊かな人間性と高い知能を養い、自らの能力を最大限に発揮することが大切です。そのうえで、その時々々の課題を乗り越え、学問の自由と自らの問題意識に基づき、多様な人々と共に新たな知を創造すること、およびそのような人材を育成することは、大学の重要な責務であるべきと考えられます。

さらに、知の創造から知の実践に向けて、社会との連携を深め、様々なステークホルダーと共に協働していくことも、本学が目指す「実学の重視」を体現した姿のひとつであり、かつ大いに期待される社会的発展でもあります。その中で、誰一人取り残さない持続可能な世界の実現に貢献するためには、人権を尊重し、多様性を尊重する人々、組織、団体と協働していくことが必要です。

以上より北海道大学は、誰一人取り残さない人権、国籍、肌の色、言語、民族、出身、宗教、性別、性的指向、性自認、ライフイベント、年齢、障害、外見・容姿、ライフスタイル、その他いかなる個人の事項に関わらず、すべての構成員の尊厳が守られ、ひとりひとりが誇りを持ち、互いの尊重する大学環境を築きます。また、すべての構成員がその能力を最大限に発揮して自らの可能性に挑戦できることを目指して、さらなる環境改革および環境意識を醸成します。これらの新たな理念と理念を踏まえ、多様性を尊重し共生を実現することを決意し、「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」を宣言します。

令和3年12月1日
北海道大学総長

Diversity & Inclusion

Diversity and Inclusion Special website
<https://diversity.system.hokudai.ac.jp>

宣言リーフレット（日本語版）

The 20th President of Hokkaido University
Kiyohiko Hoshino

Creating an environment in which each person can feel pride and challenge their own potentials

In the 21st century in order to contribute to sustainable development in both the world and in the local areas where we live, Hokkaido University announces the "Hokkaido University's Statement on the Promotion of Diversity and Inclusion" to stress the university's fundamental value of diverse people living and working together, and to strive for the realization of bias-free campuses beyond both conscious and unconscious discrimination and prejudice bias.

Hokkaido University's Statement on the Promotion of Diversity and Inclusion

The United Nations Summit 2015 adopted the "Sustainable Development Goals (SDGs)" with the slogan "leave no one behind" and widely affirmed the strong necessity for communities around the world to unite and overcome global issues. Its background takes into account the many complicated social issues interrelating and intersecting each other, among countries, regions, and their peoples.

In 2014, before the UN adoption of SDGs, Hokkaido University established a new strategic strategy towards the 150th anniversary of the university and set its new mission as "Hokkaido University-Contributing towards the Realization of Global Issues". This strategy depicts a university that plays the role of a "center for the creation, transmission, and application of knowledge" and shows its "unique individuality" by organically combining the strengths of a comprehensive university. In other words, the university is "a place of co-creation" in which it should respond to through processes of fostering a feeling of unity with respect to diversity in order to serve as a role model for the realization of a diverse society. The realization of this place of co-creation requires an "educational and research environment open to diversity" where various values, experiences, and opinions are gathered, and where free, fair, and impartial discussions are its foundation.

To this end, each university member shall deepen their understanding of others, become aware of their own unconscious biases and prejudices, develop a rich humanity and high intellect that accepts and embraces diversity, and by doing so, all members shall become able to perform at their full potential. It is also the university's fundamental responsibility to tackle the issues of the

Furthermore, from the creation of knowledge to its implementation, deepening cooperation with society and working together with various stakeholders are some of the ways in which the university aims to embody practical learning, and it is also the social role expected of the university in order to contribute to the realization of a sustainable world where no one is left behind. It is necessary to cooperate with people, organizations, and groups that protect human rights and respect diversity.

In light of the statements above, Hokkaido University aims to create a university environment in which the dignity of all members is protected and in which each person takes pride and respects each other, regardless of race, nationality, color, language, ethnicity, origin, religion, creed, gender, sexual orientation, gender identity, life events, age, disability, appearance, height, or any other personal reasons. In addition, we will continue to raise awareness and improve the university environment for them. All members of our university community can maximize their abilities and challenge their own potentials. With these new principles and mission, we are determined to respect diversity and practice harmonious coexistence, and hereby declare the "Hokkaido University Statement on the Promotion of Diversity and Inclusion".

December 1, 2021
President of Hokkaido University

Diversity & Inclusion

Diversity and Inclusion Special website
<https://diversity.system.hokudai.ac.jp>

宣言リーフレット（英語版）

北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言制定記念講演会（全4回）

「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」の制定を記念し、大学におけるダイバーシティ&インクルージョンを推進する上で重要なテーマである「ジェンダー、セクシュアリティ、民族共生、ユニバーサルデザイン」について、全4回の連続講演会を開催した。

各テーマごとの専門的見地からの講演や、講演者とコメンテーターとの対談を通じて、参加者とともに現状への理解と課題解決に向けて考える機会となった。

講演会全体では、延べ828名の方からお申し込みをいただき、ダイバーシティ&インクルージョンについての関心の高さを伺うことができた。

<連続講演会開催概要>

開会式

- 日時 2021年12月10日（金）18:00-18:20
- 開催方法 オンライン / 北海道大学学術交流会館
- 式次第 開会の辞 山口 淳二 北海道大学理事・副学長・人材育成本部長
式典挨拶 寶金 清博 北海道大学総長



山口 淳二 北海道大学理事・副学長・人材育成本部長



寶金 清博 北海道大学総長

第1回記念講演：大学と民族

- 日時 2021年12月10日（金）18:30-20:00
- 開催方法 北海道大学学術交流会館およびオンライン
- 講演題目 グローバル化時代の大学一違いを認め合う共生社会を目指してー
- 講演概要 個が中心となった現代社会においてはお互いの違いを認め合うことが重要となる。民族・性別・性的思考・宗教的・社会的背景を超えて自立した個人同士が共生してより良い社会をつくっていくことがグローバル化時代の生き方の条件である。
- 講演者情報 【講演者】ウスビ・サコ 京都精華大学学長
【聞き手】結城 幸司 アイヌ・アート・プロジェクト代表
【司 会】加藤 博文 北海道大学 アイヌ・先住民研究センター長



ウスビ・サコ 京都精華大学学長



結城 幸司 アイヌ・アート・プロジェクト代表（右）
加藤 博文 北海道大学 アイヌ・先住民研究センター長（左）

北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言制定記念講演会（全4回）

第2回記念講演：大学とユニバーサルキャンパスデザイン

- 日時 2021年12月16日（木）18:30-20:00
- 開催方法 オンライン
- 講演題目 共生社会の基盤となるキャンパス・コミュニティ
- 講演概要 学生、教職員等の「学内の構成員」を中心に、学外の構成員との関わりによって形づくられる、社会的資本として開かれた大学とそこでのコミュニティのあり方、そしてそのためのフィルターとしてのキャンパスについて考えます。
- 講演者情報
 - 【講演者】 山田 あすか 東京電機大学未来科学部建築学科教授
 - 【聞き手】 小篠 隆生 北海道大学大学院工学研究院准教授
 - 【司 会】 菅原 修孝 北海道大学理事



山田 あすか 東京電機大学未来科学部
建築学科教授



小篠 隆生 北海道大学大学院工学研究院准教授



菅原 修孝 北海道大学理事

第3回記念講演：大学とセクシュアリティ

- 日時 2021年12月20日（月）18:30-20:00
- 開催方法 オンライン
- 講演題目 なぜ、ダイバーシティが必要か？—尊厳としてのセクシュアリティ—
- 講演概要 21世紀国際社会では、国連やEU諸国を中心にLGBTQの人の権利保障が急速に進んでいる。しかし、日本の取り組みは遅れ気味である。グローバル展開を目指す大学として何が課題なのか。教育・研究・地域社会への貢献という3点から考えてみたい。
- 講演者情報
 - 【講演者】 三成 美保 奈良女子大学教授
 - 【聞き手】 鈴木 賢 明治大学法学部教授、北海道大学名誉教授
 - 【司 会】 瀬名波 栄潤 北海道大学大学院文学研究院教授



三成 美保 奈良女子大学教授



鈴木 賢 明治大学法学部教授、
北海道大学名誉教授

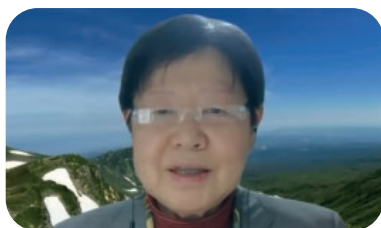


瀬名波 栄潤 北海道大学大学院
文学研究院教授

北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言制定記念講演会（全4回）

第4回記念講演：大学とジェンダー

- **日時** 2021年12月22日（水）18:30-20:00
- **開催方法** オンライン
- **講演題目** ジェンダー平等を推進し、研究する人生の魅力を高める
- **講演概要** 大学は知の生産の拠点であり、学術の再生産の主要な担い手である。本格的な知識基盤社会の到来にともない、世界の大学で構成員の多様化が進み、知の生産と社会との知の還流にしのぎを削っている。多様化のなかでもジェンダー平等化にそくして、日本の大学の状況はどのようなものか。経済・社会のあり方との関連は、どうか。意見交換したい。
- **講演者情報**
 - 【講演者】 大沢 真理 東京大学名誉教授
 - 【聞き手】 三輪 敦子 一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク共同代表理事
 - 【司会】 長堀 紀子 北海道大学人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室特任教授



大沢 真理 東京大学名誉教授



三輪 敦子 一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク共同代表理事



長堀 紀子 北海道大学人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室特任教授

閉会式

- **日時** 2021年12月22日（水）20:00-20:10
- **開催方法** オンライン
- **式次第** 閉会の辞 矢野 理香 北海道大学人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室長



矢野 理香 北海道大学人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室長

ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等による取組支援プログラム

本プログラムは、本学に所属する教職員が、男女共同参画・ダイバーシティ推進について更なる理解を深める機会を増やすことを目的とし、本学構成員（教職員・学生等）が主催する、学内で開催されるダイバーシティ研究環境推進あるいは男女共同参画推進に寄与するセミナー等の実施について支援するものである。2021年度は3件の支援を行った。

< 2021 年度支援実績 >

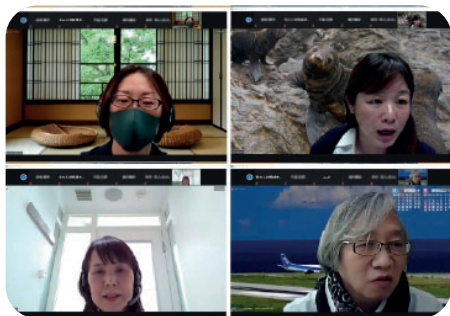
- 名称 北海道大学 FD・SD セミナー
「ダイバーシティマネジメントを始めよう！
ー多様化する学生の教育・就職支援の高度化から SDGs までー」
- 日時 2021 年 5 月 26 日 13:30 ~ 14:55
- 対象者 函館キャンパス所属の教職員（研究員含む）及び全学の教員
- 場所 オンライン：Zoom
- 参加者数 60 名
- 講演者 北海道大学人材育成本部 特任教授 長堀 紀子 氏
株式会社 Waris Waris キャリアカウンセラー、
Waris ワークアゲインエデュケーションプランナー 鳥谷 美奈子 氏
- 実施主体 大学院水産科学研究院

実施報告書より抜粋

Zoom を用いた FD・SD 研修において、主催である水産科学院だけではなく保健科学研究院、獣医学研究院など複数部局からの参加者を含む約 60 名の参加があり、ダイバーシティマネジメントへの関心の高さがうかがえた。

長堀 紀子 特任教授の講演「数字でひも解く北海道大学のダイバーシティ」では、北大における現状が紹介された。参加者からは女性研究者の育児休業などによる業績へのハンディキャップがどう評価されるのか、また、外国人研究者や留学生への事務連絡も日本語のものが多く、部局や研究室内で対応せざるを得ない状況について、どのように取り組んでいくのか、といった声が寄せられた。

鳥谷 美奈子 氏による講演「ダイバーシティ時代に向けた学生教育」では、採用活動における人権の配慮について、企業のダイバーシティ経営についてなどがテーマとして挙げられた。参加者からは、性的マイノリティの学生のキャリアパスについての質問があり、その学生への配慮の話題にも繋がった。



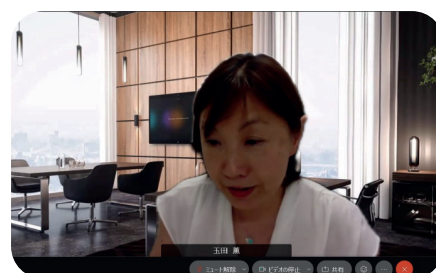
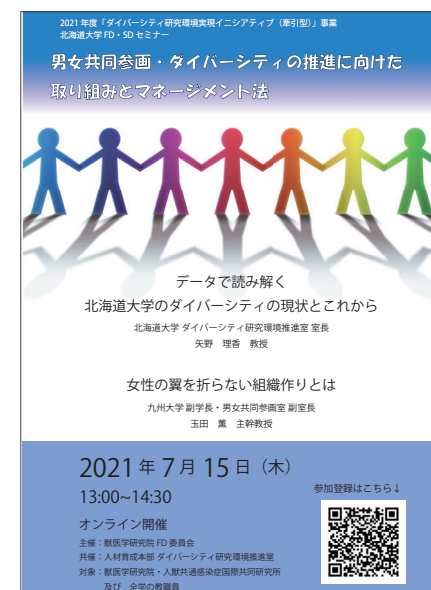
- **名称** 北海道大学 FD・SD セミナー「男女共同参画・ダイバーシティの推進に向けた取り組みとマネジメント法」
- **日時** 2021 年 7 月 15 日 13:30 ~ 14:30
- **対象者** 獣医学研究院・人獣共通感染症国際共同研究所 及び 全学の教職員
- **場所** オンライン：Zoom
- **参加者数** 37 名
- **講演者** 北海道大学人材育成本部
ダイバーシティ研究環境推進室
室長 矢野 理香 教授
九州大学 副学長・男女共同参画室
副室長 玉田 薫 主幹教授
- **主催** 獣医学研究院 FD 委員会
- **共催** ダイバーシティ研究環境推進室

実施報告書より抜粋

本 FD・SD は獣医学研究院・人獣共通感染症国際共同研究所の女性教員比率が低水準でとどまっていること、また今後は女性教員数の増加が予想されることから、教職員の意識喚起を目的として開催され、獣医系部局にとどまらず北大内・外から広く参加があった。

北海道大学ダイバーシティ研究環境推進室 室長 矢野 理香 教授からは、「データで読み解く北海道大学のダイバーシティの現状とこれから」のタイトルで、北海道大学や獣医学部の現状について、数値データを踏まえて説明された。また、アンコンシャスバイアスや、男性教員の育児・介護への参加希望・実情等、柔軟な働き方は決して「女性のため」だけではないこと、様々な課題を持つ人々にとって不利とならない制度設計が大学の魅力・価値向上につながること等、具体例を交えて紹介された。

九州大学 副学長・男女共同参画室 副室長 玉田 薫 主幹教授からは、「女性の翼を折らない組織作りとは」のタイトルで、九州大学での男女共同参画に向けた先進的取り組みや、女性の活躍の可視化による無意識のバイアスの克服等についてご講演を頂いた。九州大学では、女性枠設定による教員採用や、ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修（SENTAN-Q）等多くの斬新なモデル事業が実行に移されている。こうした先進的取り組みにより、女性採用の経験の薄い部局に経験を積ませ、同時に浮かび上がってくる問題点の更なる解決を図ることで、環境の改善が成されてきた。また、女性教員の業績は男性より劣るという無意識のバイアスが、男女別論文業績分析により決して真実ではないことが示され、部局人事の問題点抽出に役立てられていること等が紹介された。



九州大学 副学長・男女共同参画推進室 副室長
玉田 薫 主幹教授

質疑応答では多くの質問が寄せられ、矢野先生・玉田先生からも率直な回答が成される等活発な議論が行われ、参加者の意識の高さが窺われた。本部局 FD 委員会では、獣医学研究院・人獣共通感染症国際共同研究所のダイバーシティ推進にむけた環境醸成のためにも、来年度以降も関連する議題を FD・SD にて取り上げることを想定している。

- **名称** ブラウンバッグランチミーティング / Brown Bag Lunch (BBL)
- **日時** 2021年11月10日、11月17日、11月22日、12月1日
開催はいずれも 12:10 ~ 12:55
- **対象者** 一般・学生・研究者
- **参加者数** 約 120 名
- **ゲスト** 北海道大学 高等教育推進機構 助教
マズル ミハウ氏
千葉大学 国際未来教育基幹 講師
オーリ リチャ氏
- **実施主体** 大学院メディア・コミュニケーション研究院

実施報告書より抜粋

セミナーではまず、マズル先生（北海道大学高等教育推進機構 助教）が、自身が持つ文化の背景や常識が誤解を生む場合があることを、マズル助教が来日した当初に日本で経験したカルチャーショックや豊富な海外での例を元に講演した。

次にオーリ先生（千葉大学 講師、New Face of Japan 代表）が、「文化的背景の違うもの同士がどうしたら信頼関係や繋がりを持つ事ができるか？」をテーマとしたインタビューに答えた。インタビューでは、（1）感情は国境を超えて私たちをつなげる、（2）感情を共有できる場所、環境が繋がりを感じられる社会には必要である、（3）国籍と私たちの文化や価値観とは必ずしも一致しないといった内容を、自身のプロジェクトに参加している人物の具体例を出しながら説明した。

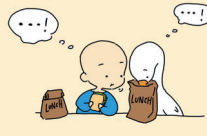
これらの講演の後、セミナー参加者たちが自己紹介を行い、自身の経験を話し合う交流会を行った。交流会は5、6人のグループで行われたが、交流時間が限られているために、物足りないと感じる参加者も数多く見られた。

また、同時通訳など参加者同士で言語について助け合う場面もあり、異文化交流への積極的な取り組み方を参加者は見いだしているようだった。この同時通訳は海外経験を持つ研究者によるもので、ある参加者からは、この同時通訳によって本セミナーがより有意義なものとなったとの感想を得た。また、オーリ先生のインタビューは日本語字幕付きでYouTubeで限定公開された。

以上、このミーティングにより、約 120 名という国際化に関心のある人々が集まり、国際化およびネットワーク作りへの関心の高さ、異文化交流への課題を共有した。ミーティングでは、国や言葉を超えた交流や情報交換の場所を求める声がとても強く発せられ、国際化に向けてお互いの文化の背景や共通点を見いだす機会が必要であることが強調された。今後の課題は、参加者たちの繋がりを、どのように皆の希望に寄り添いながら発展させていくかである。

2021年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業
Brown Bag Lunch (BBL)* を開催します
*大学の大学や研究機関では、先生や学生が気軽にランチを食べながら気軽にディスカッションBrown Bag Lunch Meeting というものが行われています。自分の意見を茶色の紙袋に入れて集まることから、この名前がつけられました。

テーマ：「国際化」



ゲスト スピーカー
千葉大学国際未来教育基幹
オーリ リチャ氏
博士（言語学）
New Face of Japan代表

**お昼ご飯を食べながら
オンラインで気軽に集まろう！**

11.10 水 12:10 - 12:55 「国際化ってなに？」（参加型セミナー）
日程 **11.17 水 12:10 - 12:55** 「いいなって世界共通じゃないの、ホント？」（参加型セミナー）
11.22 月 12:10 - 12:55 「The Power of Stories」（インタビュー）
ゲスト：マズル ミハウ助教
ゲスト：オーリ リチャ氏

22日のインタビューは後日翻訳をつけて登録した方に公開します
対象：一般・学生・研究者
使用言語：主に英語（英語のサポートがあります。必要の方は登録時お知らせください）
お問い合わせ：bbl.hokudai@gmail.com（北大・教院 北沢泉）

主催：北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院
共催：北海道大学人村育成本部ダイバーシティ研究環境推進室



Call for All International People
**Let's connect
over Lunch**

Brown Bag Lunch (BBL)* meeting theme:
**How well can you
communicate at workplace?**

*Brown bag meeting is an informal meeting where people connect over lunch. Participants typically bring their lunches packed in brown paper bags and it is where the name BBL comes from.



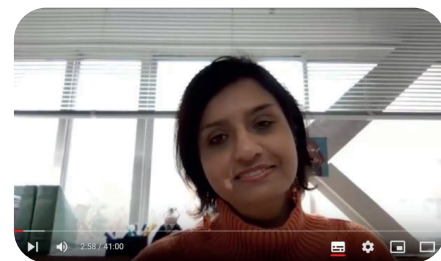
Guest Speaker
Richa Ohri, Ph.D. (Linguistics)
Lecturer, Chiba University
Institute for Excellence in Educational Innovation
Founder and Director of New Face of Japan



11.10 Wed 12:10 - 12:55 BBL meeting: 「What does international mean to you?」
Date 11.17 Wed 12:10 - 12:55 BBL meeting: 「Thumb's up means what?」
Guest: Dr. Michal Mazur (Assistant Prof.)
11.22 Mon 12:10 - 12:55 Interview with Dr. Richa Ohri
「The Power of Stories」

The recording of interview will be sent to registered participants with Japanese subtitles. **Register here!**

Venue Online (Zoom)
Open to: General public, Students and Researchers
Language: English
Contact: bbl.hokudai@gmail.com (Hokkaido University, Vetmed, Izumi Kitazawa)
Organized by University of Hokkaido, Research Faculty of Media and Communication
Co-sponsored by University of Hokkaido, Promotion office of Research environment for Diversity
2021 The Initiative for the Implementation of the Diversity Research Environment (Infection Type)

千葉大学 国際未来教育基幹 オーリ・リチャ講師

● 2021 年度ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等による取組支援プログラム募集要項

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」 2021 年度 ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等による取組支援プログラム 募集要項																	
【概要】 本学は科学技術人材育成費補助事業(文部科学省)「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」(2019 年度～2024 年度)に採択され、全学的なダイバーシティ研究環境の推進とともに、それらを北海道全域へ普及・啓発する先導的な役割を担っています。 そこで、本学構成員が研究者のダイバーシティ推進について更なる理解を深めることを目的とし、下記の支援を実施いたします。																	
【支援内容】 本プログラムは、本学構成員(教職員・学生等)を対象とした、学内で開催されるダイバーシティ研究環境推進あるいは男女共同参画推進に寄与するセミナー等の実施に必要な経費のうち、1 件あたり 30 万円を上限として支援します。																	
【支援要件】 以下を満たす研修会、セミナー、シンポジウム、ワークショップが支援の対象となります。 - ダイバーシティ研究環境推進、あるいは本学の男女共同参画推進に寄与するセミナー等であること - 原則として複数の部局にまたがる取組あるいは全学に公開する取組であること - セミナー等の対象(参加者)が本学の教職員、学生、研究員であること - 20 名以上の参加者を見込むセミナー等であること - 実施主体が部局、学科、課室等、または研究会などのグループであること - 2022 年 1 月 31 日までに開催されるセミナー等であること - ダイバーシティ研究環境推進室を共催とすること - 広報物を作成する場合、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」事業の文言を入れること																	
【支援対象となる経費】 次の経費に限り、本学規定に沿って支出することができます <table border="1"> <tr> <th>費目</th><th></th></tr> <tr> <td>人件費</td><td>当日の運営を補助する短期支援員の人件費 ただし、短期支援員の募集や雇用手続きを各部局等で行う場合に限り支援対象となります。 なお、既に他の経費で雇用されている者の発令変更は認められておりませんので、新たに雇用の発令ができる方のみが支援対象となります。</td></tr> <tr> <td>国内旅費</td><td>講師等※の国内旅費</td></tr> <tr> <td>外国人招聘旅費</td><td>講師等※の海外招聘旅費</td></tr> <tr> <td>謝金</td><td>講師等※への謝金</td></tr> <tr> <td>印刷費</td><td>取組の広報のためのポスター、チラシ、配布資料の印刷費</td></tr> <tr> <td>委託費</td><td>会場設営、広報物デザイン、当日の参加者に対する一時保育サービス、あるいはダイバーシティ研究環境推進室が個別に認めた業務を外部委託する際の委託費</td></tr> <tr> <td>消耗品費</td><td>取組を実施する上で必要不可欠であり、参加者(受益者)が負担することが適当ではない消耗品 ただし、いかなる場合も飲食物は支援対象外</td></tr> </table> ※旅費や謝金の支払い対象となる基調講演者および主講師は、セミナー等の広報物に「基調講演者」あるいは主たる「講師」として名前を記載してください。		費目		人件費	当日の運営を補助する短期支援員の人件費 ただし、短期支援員の募集や雇用手続きを各部局等で行う場合に限り支援対象となります。 なお、既に他の経費で雇用されている者の発令変更は認められておりませんので、新たに雇用の発令ができる方のみが支援対象となります。	国内旅費	講師等※の国内旅費	外国人招聘旅費	講師等※の海外招聘旅費	謝金	講師等※への謝金	印刷費	取組の広報のためのポスター、チラシ、配布資料の印刷費	委託費	会場設営、広報物デザイン、当日の参加者に対する一時保育サービス、あるいはダイバーシティ研究環境推進室が個別に認めた業務を外部委託する際の委託費	消耗品費	取組を実施する上で必要不可欠であり、参加者(受益者)が負担することが適当ではない消耗品 ただし、いかなる場合も飲食物は支援対象外
費目																	
人件費	当日の運営を補助する短期支援員の人件費 ただし、短期支援員の募集や雇用手続きを各部局等で行う場合に限り支援対象となります。 なお、既に他の経費で雇用されている者の発令変更は認められておりませんので、新たに雇用の発令ができる方のみが支援対象となります。																
国内旅費	講師等※の国内旅費																
外国人招聘旅費	講師等※の海外招聘旅費																
謝金	講師等※への謝金																
印刷費	取組の広報のためのポスター、チラシ、配布資料の印刷費																
委託費	会場設営、広報物デザイン、当日の参加者に対する一時保育サービス、あるいはダイバーシティ研究環境推進室が個別に認めた業務を外部委託する際の委託費																
消耗品費	取組を実施する上で必要不可欠であり、参加者(受益者)が負担することが適当ではない消耗品 ただし、いかなる場合も飲食物は支援対象外																
【その他の支援】 - 参加申し込みフォーム設置 - 企画実施に必要な基本物品の貸出 - 大判プリンター出力																	
【支援件数】 3 件程度																	

【申請方法】 所定の申請書をダイバーシティ研究環境推進室宛に電子メールにて提出してください。 最終申請締め切り 2021 年 11 月 30 日 *採択金額が予算額の上限に達した場合には、その時点で募集を終了します。		
【事前相談】 本支援制度をより有効に活用いただくことを目的に、申請書の提出前に事前の相談を受け付けます。面談では、企画立案、支援内容、経費等についての相談を承ります。 面談を希望する方は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。		
【審査方法】 申請者により提出された申請書に基づき、ダイバーシティ研究環境推進室にて審査を行い、採否及び支援金額を決定します。申請書の受理連絡後、2週間以内に採択可否を連絡します。		
【経費執行方法】 原則として部局等へ支援金額の予算振替を行い、経費を執行していただきます。 なお、万が一残額が発生する場合は速やかに返還いただきます。		
【実施報告】 取組終了後 30 日以内に指定書式の実施報告書(取支報告含む)及び作成した広報物を提出してください。取支報告については、部局等の事務と調整の上、ご作成ください。また、企画を実施した様子がわかる写真を数枚お送りいただけます。お送りいただく写真には、本事業のウェブサイトに掲載可能なものを少なくとも 1 枚含めてください。		
【備考】 ダイバーシティ(牽引型)事業の一環として、事業連携機関*へのリアルタイム配信へのご協力をお願いする場合があります。採択になった場合には別途調整させていただきます。配信に係る作業はダイバーシティ研究環境推進室スタッフがを行います。 *連携機関:ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)の連携機関。 (2021 年 4 月 1 日現在)室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社		
【お問い合わせ】 申請にあたりご不明点等がある場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。		
<table border="1"> <tr> <td> お問い合わせ先: 北海道大学人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室 電話:011-706-3625 メール:reed@synfoster.hokudai.ac.jp </td></tr> </table>		お問い合わせ先: 北海道大学人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室 電話:011-706-3625 メール:reed@synfoster.hokudai.ac.jp
お問い合わせ先: 北海道大学人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室 電話:011-706-3625 メール:reed@synfoster.hokudai.ac.jp		

復帰支援プログラム：投稿論文の英文校閲費助成

本支援では、産休・育休により研究中断があった研究者の研究活動をサポートするために、学術雑誌への投稿論文の英文校閲費用を助成する。なお、支援対象者の性別は問わない。2021年度は2件の支援を行った。

●支援一覧

- ・大学院薬学研究院 講師 The Journal of Organic Chemistry に投稿予定
- ・大学院医学研究院 講師 Journal of Virology に投稿予定

●2021年度復帰支援プログラム：投稿論文の英文校閲費助成募集要項

文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」 2021年度 復帰支援プログラム：投稿論文の英文校閲費助成 募集要項 【趣旨】 本支援は、文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（2019年度～2024年度）の一環として実施するものであり、産休・育休等により研究中断があった研究者の研究活動を支援するために、学術雑誌への投稿論文の英文校閲費用を助成する事業です。なお、支援対象者の性別は問いません。 【支援対象となる投稿論文】 ・ 自身が第一著者(first author)または責任著者(corresponding author)として発表する著作物であること ・ 支援決定の日から2022年2月15日までの間に英文校閲の納品検収が行われること ・ 投稿する学術雑誌が以下に該当すること 1) 査読が行われる英文の学術雑誌であること 2) 投稿規定や編集委員の情報が公開されていること 3) 論文、もしくは論文要旨を、Web等を通じて世界の研究者が閲覧できること 【支援金額】 英文校閲に要する費用の範囲内で、上限15万円まで ・ 応募状況によっては、年度途中で応募を終了することがあります。 ・ 他経費との合算での支払いはできません。 ・ 一般的な英文校閲以外の用途(カバーレター作成等)についてはお問い合わせください。 【申請資格】※以下すべてを満たすこと。 ・ 北海道大学に所属する研究者(特任教員、本学と雇用関係のある研究員・医員、学振PD・RPD・SPDを含む) ・ 申請日以前3年以内に、産休・育休・介護休業による30日間以上の連続した研究中断が終了した者 ・ 研究活動を職務に含んでいる者 ・ 投稿する学術雑誌での論文の採択が決定されるまでに本学に在籍する予定であること ・ 論文がオリジナルの学術論文であること(レビュー、本、会議発表のみを予定している論文は対象外) ・ 共著論文の場合は全共著者の了解を得ていること 【申請方法】 以下の書類を人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室(reed@synfoster.hokudai.ac.jp)宛てに提出願います。 ① 英文校閲費助成申請書 ② 校閲費の見積書(写し、1社分のみで可)	【支援件数】 5件程度 【助成決定・結果通知について】 申請内容に基づき選考を行い、支援の可否を決定します。 申請書受理から2週間以内に、ダイバーシティ研究環境推進室(以下Rec-D)から結果を通知します。 【決定後の手続き】 英文校閲の発注は申請者に行い、発注に関するメールのやり取り等はRec-Dに転送してください。ダイバーシティ研究環境推進室ではそれら取引証拠類と見積書・納品書・請求書を基に支払い手続きを行います。 <手続きの流れ> ① 見積書(原本)、英文校閲を受ける前の原稿の単語数がわかるデータをRec-Dに提出(見積書に記載された単語数と一致するか確認するため) ② 申請者が校閲業者に発注 ③ 納品後速やかに納品書(原本)、請求書(原本)、納品された成果物(写)をRec-Dに提出 ④ Rec-Dにて支払い手続き ⑤ 学術雑誌への投稿受付メール等をRec-Dに転送 ⑥ 投稿論文が学術雑誌に掲載された場合は別明またはそれに相当するものを、掲載されなかった場合はその旨の通知文等をRec-Dに提出 ・ 投稿予定学術雑誌が変更になる場合は、あらかじめ相談してください。 ・ 申請後、事情により支援が不要となった場合は直ちに連絡してください。 ・ 支援決定後、本学から異動する場合、その時点で支援終了とします。 ・ 「納品された成果物(写)」は納品物確認にのみ使用します。 【備考】 ・ 本支援を受けた方は、本事業において実施する他の研修やシンポジウム等に積極的にご参加ください。 ・ 本支援を受けた場合、事業実績報告書に掲載するために研究業績(論文数や外部資金獲得件数等)を2024年度分まで年1回提出していただきます。 ・ 支援は1人2件以内/年度とします(ただし、2件目の申請は1件目の掲載が受理されてから受け付けます)。 【問い合わせ先】 北海道大学人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室 e-mail: reed@synfoster.hokudai.ac.jp 内線: 3625
--	---

2021 年度「研究とライフイベントの両立のための補助人材支援」

この支援は、北海道大学に所属する研究者が、出産・育児等のライフイベントと研究活動を両立し円滑に業務を遂行できるよう、当事者の業務や、当事者および周囲の教員の業務補助を行う人材に係わる支援である。

前期

- **期間** 2021 年 4 月 1 日～2021 年 9 月 30 日
- **対象者** 北海道大学に所属する教員及び博士研究員
- **支援者数** 29 名

<支援内容内訳>

産休・育休による研究中断が伴う研究者への支援	5 名
育児中またはその予定がある研究者への支援	22 名
介護中の研究者への支援	2 名

後期

- **期間** 2021 年 10 月 1 日～2022 年 3 月 31 日
- **対象者** 北海道大学に所属する教員及び博士研究員
- **支援者数** 23 名

<支援内容内訳>

産休・育休による研究中断が伴う研究者への支援	1 名
育児中またはその予定がある研究者への支援	21 名
介護中の研究者への支援	1 名

● 2021 年度前期「研究とライフイベントの両立のための補助人材支援」募集要項

2021 年度 「研究活動とライフイベントの両立のための補助人材支援（半年型前期・通 年型）」募集要項

人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室

1. 概要

本支援は、北海道大学に所属する研究者が、出産・育児等のライフイベントと研究活動を両立し、円滑に業務を遂行できるよう、「補助人材の雇用経費助成」及び「業務補助人材派遣」により研究者の補助を行う人材を支援するものです。

なお、2021 年度試行を行う通年型については、本学が採択されている科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」にて支援内容を 2022 年 3 月までの期間限定で一部強化し、より一層のダイバーシティ研究環境推進を目指しています。

2. 支援対象期間

半年型前期：2021 年 4 月 1 日～2021 年 9 月 30 日
通年型（試行）：2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

3. 支援対象者と支援内容一覧

本学の教員（特任教員含む）及び博士研究員等[※]のうち、次のいずれかの状況に該当する、またはその見込みがある研究者を支援対象者（以下「対象者」という）とし、補助人材雇用件費の支援または業務補助人材派遣を行います。

※「博士研究員」……一般的な「博士研究員」として雇用される者を指す。学術研究員や JSPS 特別研究員で本学を拠点に研究活動を行っている場合は、個々の事業により支援対象となるかどうかを判断する

状況	申請可能な型および支援上限額
(A) 産休・育休等による研究中断が伴う以下の研究者	半年型 60 万円
1. 1 か月以上休暇を取得する女性研究者	
2. 2 か月以上休暇を取得する男性	半年型 35 万円
(B) 小1以下の育児中またはその予定がある以下の研究者	半年型 40 万円 または 業務補助人材派遣
1. 女性研究者	
2. 単身または共働きで行っている男性研究者 ^{*1}	
3. その他両立困難と特別に認められる男性研究者	通年型（試行）110 万円
(C) 介護中の以下の研究者 ^{*2}	半年型 35 万円
1. 1 か月以上の介護休暇を取得する研究者	
2. 日常的に家族の介護看病で研究との両立が困難な研究者	

*1 世帯内で本人、あるいは本人とパートナー（フルタイムで勤務）のみで育児を担っている者に限ります。

*2 対象者の治療のためや、定期的な通院等によりライフイベントと研究活動の両立に制約が大きい場合でも本プランが適用になる場合がありますのでご相談下さい。

3-1. 補助人材の雇用について（半年型・通年型）

補助人材の雇用種類

雇用できる補助人材は技術補助員、事務補助員とします（学術研究員の雇用を希望する場合はご相談ください）。通年型では学術研究員の雇用は認められません。

補助人材が行うことができる業務

- ・申請者本人の研究及び事務の補助
- ・出産・育児等により対象者の業務専念時間が短縮した場合、対象者の業務や研究の補助に加え、その影響を受ける周囲の教員[※]の事務補助
- ※「周囲の教員」…対象者が所属する研究室、講座、分野の教員
- ・産後休暇中は就業禁止となっているため、当該期間においては、申請者以外の教員が業務監督者として補助人材への業務指示を行ってください。

補助人材の採用

- ・補助人材の選定は原則として対象者が行い、採用手続きは、所属部局にて行います。
- ・本助成では、補助人材の超過勤務件費及び出張費は支出できませんので、発生した場合は各部局にて負担してください。
- ・学生や大学院生等の本学に籍を置く者を補助人材として雇用する場合は、対象者と部局事務の責任のもと、学業及び本人の研究活動に支障のないよう十分に配慮し、本支援業務と明確に切り分けてください。つまり、補助人材は本支援経費による勤務時間内に自らの研究活動を行うことはできません。
- ・補助人材は原則、本学の直接雇用を想定していますが、募集をかけても応募がないなど、補助人材が見つからない場合は派遣会社の利用も可能です。
- ・助成額上限(人件費)には、補助人材雇用に係る人件費として保険料・通勤手当等が含まれます。
- ・対象者が途中で本学を退職する等、支援要件を満たさなくなった場合は、要件を満たす期間内に発生する補助人材人件費額が最終的な支援金額となります。

勤務日報及び報告書の提出

補助人材は別に定める様式により毎月の勤務日報を作成し、対象者及び勤務時間管理担当者が押印の上、各月ごとに、勤務月の翌月 15 日までにダイバーシティ研究環境推進室までお送りください。

また、対象者は、本支援の件費による雇用期間が終了した後15日以内に、別に定める報告書により実施内容、本支援により得られた効果及びそれに伴い得られた成果等について、ダイバーシティ研究環境推進室に報告してください。

支援の適正な利用について

- ・申請に虚偽があった場合や、補助人材が本支援により雇用されている時間内に「補助人材が行うことができる業務」以外を行っていることが確認された場合は支援を即時中止するとともに、対象者が所属する部局からの申請受付を以後1年間停止します。
- ・上限額はあくまで上限額です。真に必要な雇用時間数を見積もった上で適切な金額を申請してください。本支援には多くの申請があります。本支援事業継続のためにも適正利用にご協力をお願いいたします。

3-2. 通年型（試行）における特記事項

本助成を用いて同一財源にて長期間安定して補助人材を雇用することを希望する研究者を対象として、2021年度は1度の申請で1年間を通した雇用が可能な申請種別「通年型」を試行します。

通年型は文部科学省科学技術人材育成費補助金を財源としています。このため、2021年度においては下記の条件を全て了解する場合のみ通年型への申請を行うことができます。

- ・この補助金では既に他の経費で雇用されている者の指令変更は認められていませんので、新たに雇用の発令ができる者が対象となります。
- ・雇用種別は事務補助員または技術補助員に限りします。
- ・雇用契約期間を2021年4月1日～2022年3月31日の間の連続した10か月以上としてください。ただし、上記雇用期間を前提に公募したにも関わらず、応募者がいないなどの理由で雇用期間が10か月に満たないことが想定される場合はご相談ください。
- ・採択金額のうち6～8割が補助金財源、残りは一般運材財源として配分しますが、補助金財源から執行し、全額執行したから一般運材財源を執行してください。なお、助成金額については必ず全額執行となるよう雇用してください。
- ・予算に限りがあることから、通年型に申請した場合でも不採択となる場合があります。通年型が不採択の場合に半年度型の審査も希望される方は申請書に半年度型の必要事項も記載してください。ただし、既に期数制限に達している場合は半年度型の申請はできません。

3-3. 業務補助人材派遣について

産前・産後休暇や育児休業等による不在期間がない研究者に対して、事務補助員をダイバーシティ研究環境推進室より週1日かつ週3時間を上限として派遣またはオンラインで業務を行い、出席・育児等のライフイベント中の研究者や管理・運営等に従事する教員の業務の補助を行うものです。

- ・派遣する事務補助員
- ・ダイバーシティ研究環境推進室に勤務している事務補助員を派遣します。
- ・事務補助員が行う業務
- ・事務作業、研究補助業務のうち事務補助員の職務範囲のもの（データ整理等のデスクワーク）を行います。
- ・その他
- ・業務補助人材の派遣は札幌キャンパスのみ実施します。

4. 支援期間の通算による制限

- ・雇用経費助成については、今回の支援対象要件に含まれる育児または要介護者について、過去に通算6期（3年間）の支援を受けた者は申請できません。
- ・育児または要介護者が複数の場合、支援期間の通算はそれぞれ行います。
- ・業務補助人材派遣については、過去に同支援を通算4期（2年間）を受けた者は申請できません。
- ・例外として、2021年度募集の通年型については通算支援期間にカウントされず、また既に通算支援期間制限に達した研究者も申請可能です。

5. 申請手続

2021年度の申請では、本支援制度をより有効に活用いただくことを目的に、申請書の提出に先立って事前面談（オンライン）を必須としています。

5-1. 事前面談

申請書提出前にダイバーシティ研究環境推進室と申請者でオンライン面談を行います。面談では希望する支援内容や補助人材の業務内容について聞き取りを行います。

申請を希望する方は下記の面談日時調整フォームに記入し、弊室からの連絡をお待ちください。

面談受付期間： 令和3年1月14日 ～ 2月1日 16:00

面談日時調整フォーム： <http://bit.ly/35iR0yq>

5-2. 申請書

申請書（様式1）を各部局担当で取りまとめの上、2021年2月2日（火）17時（厳守）までにダイバーシティ研究環境推進室に紙媒体により提出してください（学内便59番）。

※ パートナーが同一機関内に勤務している場合には、パートナーと合わせて1申請とします。双方で本支援を分割して利用したい場合にはご相談ください。

6. 審査・採択

- ・採択に係る審査はダイバーシティ研究環境推進室が行い、面談での聞き取り内容と申請内容

3

4

を総合的に判断し、採否ならびに採択の額を決定します。

- ・採否については、2月中旬～下旬に、申請者ならびに所属部局事務担当者へ通知します。
- ・通年型の不採択者については、申請書に半年度型の申請情報の記載がある場合は半年度型の審査を行います。

7. その他

- ・本支援に関わる書類ならびに各種書式（募集要項、申請書様式、勤務日報、報告書）は、ダイバーシティ研究環境推進室のホームページよりダウンロードできます。
URL： <https://reed.synfoster.hokudai.ac.jp/work-life/kenkyujojo/>
- ・後日、申請者の状況や支援内容についてヒアリングを行う場合があります。
- ・支援を受けている期間中、ダイバーシティ研究環境推進室主催のイベント（セミナー、交流会、講演会、シンポジウム等）へ積極的に参加してください。
- ・本支援は予算状況により募集期毎に支援の金額および内容が変更となります。
- ・通年型での支援は、科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の補助金にて行いますので、実績報告の作成や額の確定調査にご対応いただくことがあります。

8. お問い合わせ

8-1. 支援制度に関すること

人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室（Ree-D）

内線：3625

メール： reed@synfoster.hokudai.ac.jp

学内Teams：HU Staffチーム（チームコード「ijsezs」）の「Contact-ダイバーシティ研究環境推進室Ree-D」チャンネル

8-2. 予算に関すること

研究振興企画課人材育成担当

内線：2351

メール： jinzaijimu@synfoster.hokudai.ac.jp

5

大学入学共通テスト時の一時保育支援

本支援は、事業の一環としてライフイベントと研究または業務の両立のための研究環境整備として行っている。大学入学共通テスト業務により、本学の教職員が休日出勤を行う場合の保育負担を軽減し、教職員が能力を発揮しやすい環境を整備することを目的としている。

- **日時** 2022年1月15日～16日 7:30～19:00のうち希望する時間
- **対象者** 大学入学共通テスト当日業務に携わる本学の教職員が養育する未就学児（生後6か月以上）
- **保育場所** 北海道大学病院保育園 ポプラ（函館キャンパスについては応相談）
- **保育数** 4名（1～4歳児）

活動内容・報告

前年度に引き続き、大学入学共通テスト業務に従事する教職員が養育する未就学児の、一時保育を実施した。保育士により、1歳から4歳までの延べ4名の保育を行った。大学入学共通テスト業務において休日出勤を行う教職員を対象とし、2021年12月に学内周知を行ったところ、3名の教職員（男性1名、女性2名）が利用した。

●大学入学共通テスト時の一時保育支援（施行）利用要項

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型） 大学入学共通テスト時の一時保育支援（試行） 利用要項 人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室 本学は、文部科学省科学人材育成費補助金「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」により、ライフイベントと研究または業務の両立のための研究環境整備を進めております。 目的 育児中の教職員が大学入学共通テスト業務において休日出勤を行う場合の保育負担軽減を通じ、育児の有無に関わらず教職員が能力を発揮し活躍できる環境を整備する。 概要 大学入学共通テスト日に一時保育所を学内に開設し、無料で託児を行う。 日程 2022年1月15日（土）、16日（日） 利用対象 大学入学共通テスト当日業務に携わる、本学の教員・職員が養育する未就学児（生後6か月以上） 利用料金 無料（ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業経費または大学経費にて負担） 保育時間 7時30分～19時00分（予定）のうち希望する時間 保育場所 北海道大学病院保育園 ポプラ （函館キャンパスについては応相談）	申込方法 人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室 reed@synfoster.hokudai.ac.jp 宛てに、別紙申込書及び別紙1（緊急時対応事項及び承諾書）を送付してください。 なお、アレルギーまたは持病がある、あるいは与薬が必要な場合は、別紙2（個別対応書類）のうち、必要な書類に記載の上、併せて提出してください。 申込締切 12月15日（水） 13時 保育について ・保育は、北海道大学病院保育園ポプラで行います。（日本語のみ対応） ・新型コロナウイルス感染症対策については、こまめな手洗い・手指消毒、6歳児のマスク着用（5歳児以下はマスク非着用可）、保育人数を通常より減らす、等の標準的な感染症対策を行いますが、感染可能性がゼロではないことを了承の上、ご利用ください。 ・病児（疑）・病後児、当日体温37.5度以上の子どもの保育はできません。託児前の検温、体調確認をお願いします。 ・保育にあたり、当日下記をご持参ください。 * 食事・飲み物・おやつ等 必要に応じてお弁当をお預かりし、お食事の介助をいたします。 必要な場合は、哺乳瓶・ミルク（回数分小分けにして）をお持ちください。 * 着替え一式（オムツ、洋服など） お着替えは1～2組ご用意いただき、トイレトレーニング中のお子様は下着を多めにご持参ください。 ・お迎えの際、身分証明書（運転免許証・母子手帳・健康保険証等）を提示頂く場合があります。 ・お子様のお荷物は、記名の上、ひとまとめにご持参下さい。 ・当日朝は保護者の方が託児場所にお子さまをお連れください。 ・委託者にて団体加入している補償保険は傷害保険の為、保育中に新型コロナウイルス感染症に罹患した場合も補償の対象になりません。ご了承の上でお申し込みください。
--	--

事前面談と託児不可について

必要に応じ、事前に面談をする可能性があります（電話または対面）。「重度のアレルギー症状がある場合」「個別での配慮が必要と判断した場合」につきましては、託児をお断りする可能性もございます。ご了承ください。

当日、託児をお断りする状況について

当日、保護者あるいはお子さんが以下の状況にある場合は託児ができません。ご了承ください。

- ・託児前2週間以内に新型コロナウイルス感染症と診断された人及びその濃厚接触者と接触した
- ・当日、お子さんが37.5度以上の発熱や呼吸器症状（以下「発熱等」という）がある
- ・解熱後24時間以上経過しておらず、咳などの呼吸器症状、強いだるさ（機嫌の悪さ）が見られる
- ・当日、保護者、同居のご家族に37.5度以上の発熱等がある
- ・保護者、お子さんが海外より帰国後、2週間経過していない

本取り組みの継続性について

この一時保育支援は今年度まで実施し、その利用実績等から次年度以降の制度設計を行います。

両立支援コンテンツ WEB コラム連載・冊子作成

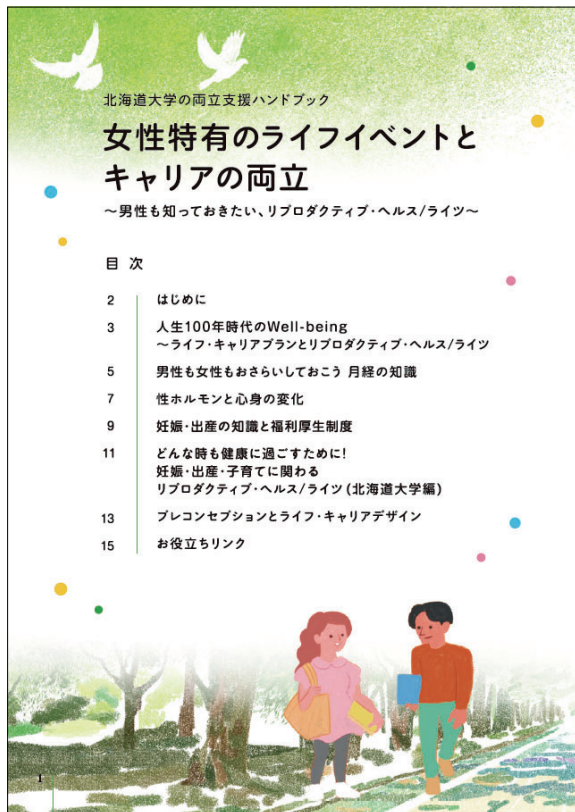
誰もが、ライフイベントとキャリアの両立が叶えられるダイバーシティ研究環境を目指し、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の考え方を軸にした北海道大学の両立支援コンテンツを企画した。

リプロダクティブ・ヘルスとは、生殖システムの機能と過程のすべてにおいて、疾病や障害がないばかりでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態を示す。それは、人々が安全で満ち足りた性生活を営み、生殖能力をもち、子どもを産むかどうか、産むのであればいつ何人産むのかを決める自由をもつことである。そして誰もがそのリプロダクティブ・ヘルスを享受する権利を有するという概念が、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」である。つまり、日々の業務や研究を進めキャリアプランを考えながら、自分の健康な身体を大切にライフプランを描き生活を営む権利を誰もが有しているということである。

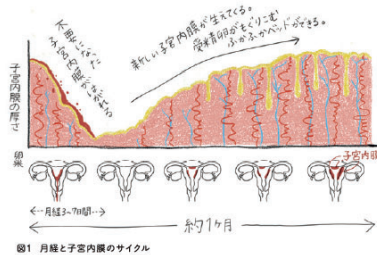
私たちは、この権利を享受できる環境がダイバーシティ研究環境へつながると考えた。このような環境を実現するためには、ライフイベントに関わる身体や健康の変化とそれに合わせて利用できる福利厚生制度や自治体の関連制度を誰もが知り、周囲とうまく調整しながら制度を活用できる環境であることが大切である。

そこでライフイベントが多い女性特有の話題について、福利厚生制度の説明だけでなく、これらの制度を必要とする背景を紹介するコンテンツをWEBサイト（Ree-D Column）とWEBサイトの内容を簡略化して紹介する冊子（女性特有のライフイベントとキャリアの両立～男性も知っておきたい、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ～）を作成した。

ライフイベントとキャリアプランを考えている学生・研究者・職員だけでなく、キャリアに邁進している人も周囲のスタッフや家族の身体と健康に関する情報の参考として、読んでほしい内容となっている。情報を共有することで、誰もがキャリアやライフプランの希望を周囲と調整しながら叶えられるダイバーシティ研究環境がさらに醸成されていくことを願っている。



2 男性も女性もおさらいしておこう 月経の知識



月経と リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

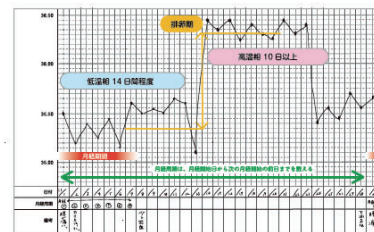
年齢とともに心身の状態が変化する女性においては、自分の体が年齢相応に、良好な状態で機能しているかどうか見直してみよう。そして思春期は性成熟期にむけて、性成熟期は更年期/老年期にむけて、未来の健康のためにいま何ができるかを考えよう。

まずは、生殖に関係している月経について説明します。

月経とは

「月経」は生殖のために必要な機能のひとつで、子宮の内側の壁を覆うやわらかい子宮内膜からの周期的出血です（図1参照）。通常約1ヶ月の間隔で起こり、3日～7日程度で自然に止まります。

「妊娠」は、精子と卵子が出会ってできる受精卵が、子宮内膜に着床することで成立します。その周期で妊娠しなければ子宮内膜が出血とともに剥がれ落ちます（月経血）。この月経により内膜はリセットされ、次の周期にまた新しい内膜が生えてくるのです。



自分の月経を知る方法

月経開始日と終了日に加えて、基礎体温を記録することにより、自分の月経周期を詳しく知ることができます（図2参照）。基礎体温は、専用の婦人体温計^{※1}を使い、朝目覚めた安静な状態で測定する必要があります。動き出すと体温は上昇するためホルモンによる微細な体温変化が捉えにくくなります。

月経異常

日常生活のストレスや生活習慣の変化などで、月経不順が起こることがあります。そして、ダイエット等による急激な体重減少などで、月経が止まること（無月経）もあります。無月経が続くとエストロゲン不足から、若年者でも骨粗しょう症のリスクが生じます。

また、性成熟期の女性によく起きる、子宮筋腫と子宮内膜症についても

知っておいたほうがいでしょう。

子宮筋腫は、子宮の筋肉にコブができる良性腫瘍で、月経量が多くなり月経痛が現れます。小さなものを含めると30歳代以降の20～30%にみられます。一方、子宮内膜症は、本来子宮の内側にある内膜が子宮筋や卵巣などの他の場所に発生し、腫瘍を形成する疾患です。月経痛や性交痛の原因になるだけでなく、不妊の原因になったり、卵巣内膜症では癌化する可能性がある、やや複雑な病気です。正常な月経周期と経血量の目安を参考にしながら^{※2}、月経痛や月経量の増加などを感したら産婦人科で相談しましょう。

※1 一般的に小口径以下2桁まで体温を計測できるもの。家電量販店やドラッグストアで購入することができます。

※2 正常な月経周期と経血量の目安
周 期：1周期25日～38日（変動±6日）
持 続：1周期中の月経総持続時間 3～7日
経血量：1周期の経血量 20～140mL

このページを
WEBサイトで読む

室蘭工業大学の取組

ライフイベント期の研究者への研究支援員配置

出産・育児・介護等のライフイベント期の女性研究者に対し、研究活動の補助を行う支援員を配置することにより、ライフイベント期にある研究者が研究活動を継続することができる環境を整備し、女性研究者の研究力向上を図っている。

2021年度は、育児や介護を行っている女性教員4名に対して支援を行った結果、4名全員が科学研究費助成事業の採択を受ける、1名が上位職に昇任する等の成果が上がった。

●令和3年度「ライフイベント期（妊娠・育児・介護等）の研究者支援」募集要項

令和3年度「ライフイベント期（妊娠・育児・介護等）の研究者支援」募集要項

1. 目的

本学における教員及び博士研究員がライフイベント期（妊娠・育児・介護等）と研究活動を両立することができるよう、支援員の雇用に係る経費の助成を行う。

2. 応募資格

本学の教員及び博士研究員のうち、妊娠・育児（小学校6年生以下）又は介護等に当たっている者。要介護等ではないパートナーと同居している場合は、原則としてパートナーの勤務時間が週35時間以上であること。

3. 助成内容

対象者に対し、支援員を雇用する経費を助成します。雇用できる期間は、令和3年4月上旬から令和4年3月31日までの間の必要期間・必要時間とします。また、雇用できる支援員は学術研究員、技術補佐員又は事務補佐員としますが、必要であれば臨時補助員や派遣会社の利用も可能です。詳しくは男女共同参画推進室までご相談ください。

4. 申請手続

申請書「ライフイベント期（妊娠・育児・介護等）の研究者支援」に記載し、男女共同参画推進室に提出してください。

5. 採択

多数の応募があった場合には、対象者の職位や必要状況等を加味した上で、男女共同参画推進室で総合的に審査の上、採否を決定します。

6. 支援員の採用

支援員の選定にあたっては男女共同参画推進室から情報提供できる場合もありますが、原則として申請者が行うこととします。

7. 報告書の提出

本支援を受けた研究者には、報告会の参加と報告書の提出をお願いすることがあります。

8. 問い合わせ先

室蘭工業大学男女共同参画推進室（総務広報課労務管理係：内線5018）
E-mail: ufr@sumi.muroran-it.ac.jp

ニュースレター「ダイバーシティ通信」

本学の取り組みについてニュースレターを発行し、北海道地域の大学や高等学校を中心として情報発信を行うとともに、本学が開催する講演会について連携機関等に周知を行うことにより相互参加を図っている。また、昨年度より女子高校生に本学の教育・研究をより具体的に知ってもらうことを通じて女性研究者の裾野拡大を図ることを目的として、本学女子学生へのインタビュー記事を掲載している。

・ダイバーシティ通信第14号（2021年11月発行）

ダイバーシティ通信
女子学生インタビュー

理系という男子が多いイメージがありますが、キラリと輝く女子学生も沢山います！理工系大学に進学した理由や理系女子で学んでいることなどについてインタビューした内容をご紹介します。「理系って面白そう！」「私もやってみたい」と感じる中高生が一人でも増えることを期待しています。

情報セキュリティへの目覚め
子どもの頃からパソコンやウェブサイトの開発や音楽制作などに関心があったのですが、情報工学に興味をもつようになったのは高校生の頃からです。大学で情報セキュリティの重要性を知り、大学でこの分野を学び、情報セキュリティの発展に貢献したいと思うようになりました。情報工学は、工学系分野の専門性が高いイメージがありますが、高校の先生や家族のアドバイス等を受けて、本学の情報電子工学系学科（2018年度）に入学しました。

女子学生が少ないゆえの通感
入学前から、本学の女子学生の少なさについて聞いていたのですが、入学式で同じく通感して、改めての少なさに驚きました。グループワークなどの時は一人だけ女子生ということが多く、気取らないこともありました。ただ、女子学生が少なくないという、女子学生同士の通感があります。以前は新人生向けの Girls Talk Party（女子学生のみで開催される交流会）があったのですが、コロナ禍の現在は、SNSを通じて新人生同士コミュニケーションをとったりしています。

研究室の多い研究室
私の所属する研究室は留学生が半数以上を占めているという特徴があります。

移り変わりや競争は激しいが、最先端を走る分野なのでやりがいを感じる

■教職員のためのダイバーシティセミナー2021■

【教員から考える男女平等参画—男性の育児・家事と女性の就業に注目して—】

講 師：石井クワン子氏（北海道的女子大学 理事・副学長（国際交流・男女共同参画推進））
日 時：令和3年9月13日（月）13:30～15:00
開催方法：オンライン（Zoomウェビナー）
対 象：全職職員、大学・研究機関の研究者、技術者及び職員、その他ダイバーシティに関心のある方

今年度のダイバーシティセミナーはオンライン（Zoomウェビナー）での開催となり、お集まりの女子大学 理事・副学長（国際交流・男女共同参画推進）の石井クワン子先生をお招きし、「教員から考える男女平等参画—男性の育児・家事と女性の就業に注目して—」と題してご講演いただきます。

前半ではコロナで顕在化した日本の男女共同参画の課題と女性の意識について、後半では世代別の男性の意識内変容に対する認識の変化と日本の現状についてや父親の育児・家事参加がもたらす影響などについて、最新の研究に基づいた報告がなされました。

子育てする男性が増えれば「育メン」という言葉でもはやされることのない社会を目指そうと、ジェンダー平等参画推進の取組について報告がなされました。

当日は学外の方を含めて計数名の参加があり、参加者からは、「自分ももう後継世代ではないけれど、今の世代やこれからの世代の人たちの意識・行動に肯定されている知識を得られた。」「男性の育児休業取得率も高くない。また取得しても日数が短いという点は、どの大学も抱えている課題で、多くの大学で事例を共有できるとよいと思った。」などの感想が寄せられました。

■付属図書館共催 英語論文セミナー■

「アクセプトへの第一歩！英語論文執筆のA to Z」

講 師：サザンクロス株式会社 Gary Hatcher 代表、中西 裕子 氏
日 時：令和3年7月7日（水）～7月8日（木）
【日本語での講義】7月7日（水）初級者向け 13:30～14:30
15:00～16:30
【英語での講義】7月8日（木）Beginner 13:30～14:30
Intermediate 15:00～16:30

開催方法：オンライン（Zoom）
対 象：教員、研究者、大学院生
共 催：付属図書館

所属図書館と共同で開催する、英語論文セミナー「アクセプトへの第一歩！英語論文執筆のA to Z」英文校正のプロが具体的な注意点を解説！

サザンクロス株式会社代表の Gary Hatcher 氏、同社の中西 裕子 氏を講師に招き、英語論文執筆のA to Zや留意点について英語及び日本語で解説していただきます。英語版と日本語版でそれぞれ初級者向け・中級者向けの計4回のセミナーを行います。両日で60名が参加し、オンラインでの開催も好評のうちに終了することができました。

本学の専ら共同参画推進を推進して下さる個人・企業からの寄付を歓迎しております。
詳しいお申し込み方法はこちらをご覧ください
https://www.hokudai.ac.jp/diversity/2021/06/20/20210620.html
ぜひご協力をお願いします。

・ダイバーシティ通信第15号（2022年3月発行予定）

帯広畜産大学の取組

男女共同参画推進室セミナー

- **名称** 令和3年度 男女共同参画推進室セミナー
「パパからパパへのメッセージ」
- **日時** 2021年11月18日～2021年12月10日
- **対象者** 帯広畜産大学の教職員・学生
- **場所** YouTubeによるオンライン配信
- **参加者数** 104名（延べ視聴者数）
- **講演者** 帯広畜産大学 教授 島田 謙一郎
帯広畜産大学 准教授 花田 正明
帯広畜産大学 講師 斉藤 準
帯広畜産大学 助教 渡邊 謙一
（インタビュアー：帯広畜産大学 助教 福間 直希）
- **実施主体** 帯広畜産大学男女共同参画推進室

活動内容・報告

ライフイベント期にある男性教員が本学における子育て支援制度の活用状況や実際のライフワークバランスの状況を紹介し、ライフイベント期教員が一層の制度活用に繋げるとともに全学的な男女共同参画に関する意識の醸成を目的として実施した。

視聴者からは、「パパ目線の育児は大変興味深かったです。」「女性はもちろんのこと、男性教職員も大学の制度を利用しやすい環境が作られることが大切だと思う。」「各々の子育て方法の知恵やそれにまつわるエピソードを聞けて面白かった。」といった感想が得られた。



北見工業大学の取組

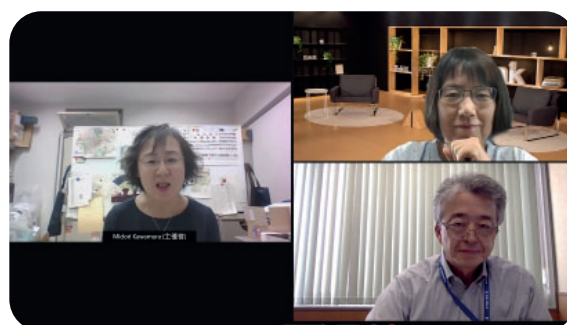
ダイバーシティ推進に関する講演会

学内の意識改革を図ることを目的とし、ダイバーシティ推進や男女共同参画推進に係る FD 講演会を実施した。

- **日時** 2021 年 8 月 31 日 10:30～12:00
- **対象者** 北見工業大学所属教職員及び KNIT 連携機関の教職員等
- **場所** オンライン：Webex
- **参加者数** 109 名
- **講師** 日本アイ・ビー・エム株式会社 グローバル ビジネス サービス事業部
技術理事 行木 陽子氏
- **実施主体** 北見工業大学ダイバーシティ推進室

活動内容・報告

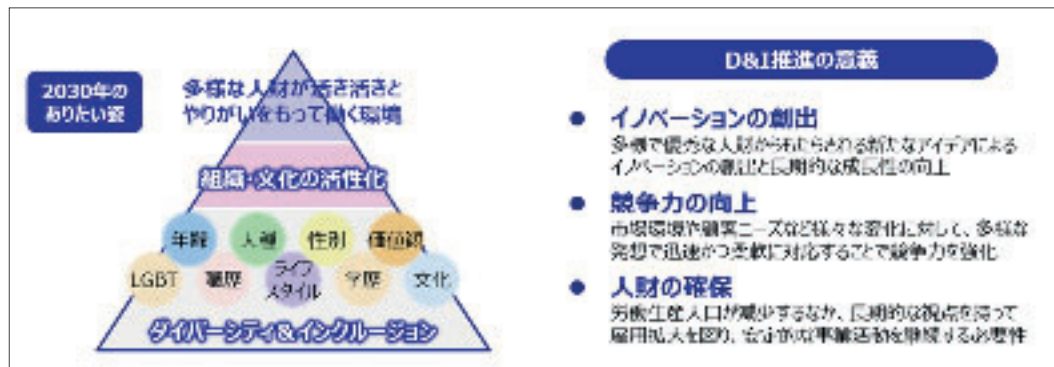
令和元年度から毎年実施しており、今年で第 3 回目となる講演会をオンラインで開催した。講師の行木 陽子氏から仕事と個人生活の両立支援制度や階層別育成プログラム、女性研究者・技術者のコミュニティでの活動など、日本 IBM で実施しているダイバーシティ&インクルージョン推進の先進的な事例が紹介された。ダイバーシティ推進の取り組みは、長年継続することによって成果が得られるとの指摘もあった。参加した教職員アンケートの結果からも意識改革に繋がったとの声が多くあり、大変有意義な講演会となった。



日東電工株式会社の取組

組織体制の整備（D&I 推進部の設置）

D&I は Nitto の持続的な企業価値向上に向けた経営戦略のひとつと捉え、多様な人財の採用・育成・登用、活躍による企業価値向上へ実効性のある取組を強化するため、2021 年 7 月 1 日に D&I 推進部を設置。女性管理職比率 2030 年グローバル 30%、日本エリア 10%、2021 年グローバル 21% の目標を設定し、取り組みをスタートした。



研究力向上・リーダー育成のための取組

連携機関全体の取組

2021 年度 KNIT 共同研究助成

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークでは、連携機関における女性研究者の研究力の向上やリーダースキルの強化、また北海道の研究ネットワークの拡大を目的とし、KNIT 連携機関研究者と優れた共同研究を計画する研究者（研究代表者については女性研究者限定）に対して研究費助成（KNIT 共同研究助成）を行った。

また本研究助成を通じて、多様な分野の研究者が出会い共同して新しい領域を目指し、共同研究のマネジメントができる研究人材の育成を図った。

- **実施機関** 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク
- **公募期間** 2020 年 12 月下旬※～2021 年 2 月 1 日 正午

< 2021 年度 KNIT 共同研究助成採択結果 >

応募：14 件 採択：14 件

採択決定：2021 年 3 月 24 日 KNIT 推進会議（オンライン会議）にて議決

助成対象、助成金等詳細は別掲募集要項を参照。

※連携機関ごと募集要項を作成・公開のため公募時期は各機関により異なる。

< 2021 年度 KNIT 共同研究助成概要 >

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

2021 年度 KNIT 共同研究助成 概要

1. 研究チーム構成

共同研究チーム（研究代表者 1 名、共同研究者 1 名以上）



研究代表者

研究代表者とは異なる KNIT 連携機関に所属する女性研究者^{※1}を少なくとも 1 名入れる

※1 KNIT 連携機関^{※2}に所属する女性研究者^{※3}

※2 一人の研究者が研究代表者になれるのは 1 件まで。



共同研究者

研究代表者とは異なる KNIT 連携機関に所属する研究者^{※3}を少なくとも 1 名入れる

※3 性別・人数の限定はない

※4 KNIT 連携機関以外の共同研究者が 1 名以上参加している場合は、これ以外の機関・企業に所属の研究者を共同研究者が参加することが可能。

※5 KNIT 共同研究助成の中で、複数の申請の共同研究者となることは可能。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

2. 研究助成の額

研究代表者：上限 100 万円程度
共同研究者：上限 20 万円程度^{※4}

各機関ごと異なるため所属機関の要項を確認してください。

※4 一人が複数の KNIT 共同研究の共同研究者となる場合、共同研究者への配分上限額は共同研究毎に適用される。ただし、その配分率については要項等に留意される。

申請金額について（補足）

申請者一人当たり

2021 年度 KNIT 共同研究助成で申請する
総額が 175 万円を越えないこと。



研究代表者として 100 万円申請
共同研究者として 20 万円申請している
研究テーマ 4 件

計 180 万円

研究テーマ 1 件当たり

2021 年度 KNIT 共同研究助成で申請する
総額が 180 万円を越えないこと。



研究代表者 100 万円申請
共同研究者 1-4 人それぞれ 20 万円申請

計 180 万円

その他、KNIT 共同実施機関の公募要項はこちらから

<https://bit.ly/3p8t8t8>

2021 年度 KNIT 共同研究助成審査結果一覧

研究課題	研究代表者	共同研究者
マウスにおける「つわり」様現象の探索:摂食・活動量・悪心・唾液分泌・感覚の評価	矢野 沙織 助教 北海道大学大学院獣医学研究院	上川 昭博 帯広畜産大学 岡松 優子 北海道大学
栄養の二重負荷と所得階層別食品選択の多様性 ーベトナムの世帯調査データを対象にー	齋藤 陽子 講師 北海道大学大学院農学研究院	窪田 さと子 帯広畜産大学
地域における多文化共生の取り組みと大学をつなぐ ーリソース共有のためのプラットフォームの構築ー	平田 未季 准教授 北海道大学高等教育推進機構	式部 絢子 北海道大学 鄭 惠先 北海道大学 山路 奈保子 室蘭工業大学 久保 比呂美 北見工業大学
変異ー正常細胞間および医療材料ー細胞間の相互作用に関する微細構造学的解析	釜崎 とも子 特別研究員 北海道大学 大学院先端生命科学研究院	大津 直史 北見工業大学
コルチゾールが卵巣の糖脂質組成に与える影響	小林 純子 講師 北海道大学大学院医学研究院	手塚 雅文 帯広畜産大学 比能 洋 北海道大学 工藤 正尊 北海道大学
手術を受ける患者の体温管理を目指した加温・保温用具の開発	溝部 佳代 講師 北海道大学大学院保健科学研究院	佐波 映 日東電工株式会社 木村 栄史 株式会社ニトムズ
知を創造する持続可能な場づくり ー北海道らしい自然を研究とアートで発信するー	朴 炫貞 特任講師 北海道大学高等教育推進機構	内海 佐和子 室蘭工業大学 矢島 由佳 室蘭工業大学 中馬 いつみ 帯広畜産大学
ウェアラブルセンサを用いたスポーツ傷害発生予防スクリーニングツールの開発と応用	寒川 美奈 准教授 北海道大学大学院保健科学研究院	佐波 映 日東電工株式会社 石田 知也 北海道大学
ヤクシカの遺伝的空間構造とその時間的変化 ー景観構造と人間活動がシカの移動に与える影響を調べるー	寺田 千里 学術研究員 北海道大学北方生物圏 フィールド科学センター	赤坂 卓美 帯広畜産大学
水を主溶媒とする環境に優しい反応を利用した高分子合成とドラッグデリバリーへの応用	庭山 聡美 教授 室蘭工業大学しくみ解明系領域	佐藤 悠介 北海道大学
ベトナムにおける農業保険導入による経営への影響と制度的課題	窪田 さと子 助教 帯広畜産大学環境農学研究部門	齋藤 陽子 北海道大学
酸化ニッケル薄膜の形態制御とその省エネルギー機構解明	金 敬鎬 教授 北見工業大学工学部 応用化学系	三浦 篤志 北海道大学 藤井 翔 木更津工業高等専門学校
畳み込みニュートラルネットワークを用いたタンパク質のポケット構造からのヘムの結合構造の予測	近藤 寛子 助教 北見工業大学工学部 応用化学系	飯塚 博幸 北海道大学 舩本 現 理化学研究所
姉妹都市から考える地方都市の国際化 ー姉妹都市交流は地方都市の活性化に貢献できるかー	久保 比呂美 講師 北見工業大学国際交流センター	山路 奈保子 室蘭工業大学 ボゼック クリストファー 北見工業大学

● 2021 年度 KNIT 共同研究助成 募集要項【北海道大学】

【北海道大学】 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」 2021 年度 KNIT 共同研究助成 募集要項 【趣旨】 科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（2019 年度～2024 年度）の一環として、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）の連携機関（以下、「KNIT 連携機関」という。）である北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社における女性研究者の研究力の向上やリーダースキルの強化、また北海道の研究ネットワークの拡大を目的とし、KNIT 連携機関研究者と優れた共同研究（KNIT 共同研究）を計画する研究者（研究代表者については女性研究者限定）に対して研究費助成を行います。 【研究助成の額】 A. 本学に所属する研究代表者が採択となった場合、1 件最大 100 万円。 B. 本学に所属する共同研究者が採択となった場合、一人あたり 1 件最大 25 万円。 2021 年度 KNIT 共同研究助成の総額に関する条件は【応募要件】（4）申請金額の条件を参照のこと。 【応募要件】 （1）共同研究チームの構成 ・KNIT 連携機関に所属する女性研究者を研究代表者とし、研究代表者とは異なる KNIT 連携機関の研究者少なくとも 1 名を共同研究者とすること。この条件を満たす場合は、KNIT 連携機関以外の研究者が共同研究者として参画することを妨げない。なお、研究代表者と共同研究者の詳細については以下のとおりとする。 ①研究代表者 ・異分野 meetup week2020 →ポスター出展参加^{※1}した女性研究者（特任教員、博士研究員、学術研究員を含む^{※2}）。 ②共同研究者 ・大学、企業、その他機関に所属する研究職の者（特任教員、博士研究員、学術研究員を含む^{※2}）で、性別は問わない。 ・共同研究者への研究費助成は KNIT 連携機関の大学に所属する研究者のみが対象となる。 ・異分野 meetup week2020 への参加実績があることが望ましく、審査において加味される。 ※1 ポスター出展者の他に、ポスター→連名で名前を掲載し、異分野 meetup week 2020 →参加登録をした者を含む。 ※2 共同研究の中で責務を果たすために十分なエンゲージメントを確保でき、雇用条件に反していない場合	（2）複数の KNIT 共同研究申請 ・一人の研究者が研究代表者として申請できる KNIT 共同研究は 1 件に限る。 ・研究代表者が他の KNIT 共同研究の共同研究者になることを妨げない。 （3）2020 年度 KNIT 共同研究助成採択者の申請 ・2020 年度 KNIT 共同研究助成採択者は、新規テーマまたは 2020 年度採択テーマから発展的な内容であることが明らかである場合申請することができる。 （4）申請金額 ・申請者一人あたり、年度 KNIT 共同研究助成で申請する総額が 175 万円を超えないこと。（例：研究代表者としての申請金額 100 万円＋他共同研究の共同研究者としての申請金額 20 万円×4 件＝180 万円は不可） ・一つの共同研究テーマで申請する研究助成費の総額が 180 万円を超えないこと。 ・一人が複数の KNIT 共同研究の共同研究者となる場合、【研究助成の額】B に記載する上限額は共同研究毎に適用される。ただし、その実行妥当性については審査時に考慮される。 （5）その他 ・本事業の趣旨から、共同研究者には女性研究者が参加していることが望ましいため、審査においてはその点を加味する。 ・同じテーマで他の研究費助成を受けていないこと。 ・他連携機関所属の研究者に対する助成金額については、当該研究者所属機関の募集要項を参照すること。 【助成対象研究経費】 設備備品費（50 万円以上の購入経費）、消耗品費、旅費（当該研究成果の発表に係る学会参加、当該研究に係る打合せ等、但し外国旅費は不可。）、その他必要な経費（諸謝金、通信運搬費、借料、雑役務費） 上記対象経費に含まれる場合でも、他機関所属の研究代表者や共同研究者に対する支出はできない。 【助成金の配分と執行期間】 ・助成金は、採択が決定し、研究者が所属する機関間にて共同研究契約を締結後に配分する。 ・助成金の執行期間は、共同研究契約締結後から 2021 年度 2 月末までとする。 【申請方法】 ・本学に所属する研究代表者は、所定の申請書をダイバーシティ研究環境推進室宛に電子メールにて提出すること。 （他連携機関に所属する共同研究者には該当機関へ申請書のコピーを提出するようお願いください。）
---	--

・本学に所属する共同研究者は、研究代表者が所属機関に提出した申請書のコピーを、ダイバーシティ研究環境推進室宛に電子メールにて提出すること。 申請期限 2021 年 2 月 1 日（月）正午 【選考について】 ・北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク審査委員会により選考と助成額を決定し、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議で採択が承認される。 ・選考は、審査委員会が定めた以下の観点より行う。 A) 研究の背景・目的が進でも理解できるよう表現されていること B) 研究計画が目的に対して妥当であること C) 共同研究であることの意義・役割分担が明確に説明されていること D) 研究助成を通じて、リーダーとしての成長が期待できること E) 予算計画は研究計画に対して妥当であること F) 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークが主催する異分野交流イベントへの参加が積極的であること 【結果通知】 2021 年 4 月上旬予定。申請者すべてに通知する。 【その他】 ・採択された場合、本事業において実施する研修やシンポジウム等に、積極的に参加すること。 ・研究代表者は当該年度の実施期間終了後に、指定様式の実施報告書（収支報告含む）をダイバーシティ研究環境推進室に提出すること。 ・採択された申請については、研究タイトルと申請者所属、共同研究者所属名を北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークの WEB サイト、ダイバーシティ研究環境推進室の発行物等に掲載する。その他の事項については申請者の許可を得た上で掲載することがある。	申請書等の提出先・お問合せ先： 北海道大学人材育成本部 ダイバーシティ研究環境推進室 電話：011-708-3625 メール：reed@synfoster.hokudai.ac.jp
---	---

● 2021 年度 KNIT 共同研究助成 募集要項【室蘭工業大学】

【室蘭工業大学】	
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」 2021 年度 KNIT 共同研究助成 募集要項 【趣旨】 科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（2019 年度～2024 年度）の一環として、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）の連携機関（以下、「KNIT 連携機関」という。）である北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社における女性研究者の研究力の向上やリーダースキルの強化、また北海道の研究ネットワークの拡大を目的とし、KNIT 連携機関研究者と優れた共同研究（KNIT 共同研究）を計画する研究者（研究代表者については女性研究者限定）に対して研究費助成を行います。 【研究助成の額】 A. 本学に所属する研究代表者が採択となった場合、1 件最大 100 万円。 B. 本学に所属する共同研究者が採択となった場合、一人あたり 1 件最大 20 万円。 2021 年度 KNIT 共同研究助成の総額に関する条件は【応募要件】（4）申請金額の条件を参照のこと。 【応募要件】 （1）共同研究チームの構成 ・KNIT 連携機関に所属する女性研究者を研究代表者とし、研究代表者とは異なるKNIT 連携機関の研究者少なくとも 1 名を共同研究者とすること。この条件を満たす場合は、KNIT 連携機関以外の研究者が共同研究者として参画することを妨げない。なお、研究代表者と共同研究者の詳細については以下のとおりとする。 ①研究代表者 ・異分野 meetup week2020 へポスター出展参加^{※1}した<u>女性研究者</u>（特任教員、博士研究員、学術研究員を含む^{※2}）。 ②共同研究者 ・大学、企業、その他機関に所属する研究職の者（特任教員、博士研究員、学術研究員を含む^{※2}）で、<u>性別は問わない。</u> ・共同研究者への研究費助成は KNIT 連携機関の大学に所属する研究者のみが対象となる。 ・異分野 meetup week2020 への参加実績があることが望ましく、審査において加味される。 ※1 ポスター出展者の他に、ポスターへ連名で名前を掲載し、異分野 meetup week 2020 へ参加登録をした者を含む。 ※2 共同研究の中で資力を果たすために十分なエフォートを確保でき、雇用条件に反していない場合	（2）複数の KNIT 共同研究申請 ・一人の研究者が研究代表として申請できる KNIT 共同研究は 1 件に限る。 ・研究代表者が他の KNIT 共同研究の共同研究者になることを妨げない。 （3）2020 年度 KNIT 共同研究助成採択者の申請 ・2020 年度 KNIT 共同研究助成採択者は、新規テーマまたは 2020 年度採択テーマから発展的な内容であることが明らかである場合申請することができる。 （4）申請金額 ・申請者一人あたり、年度 KNIT 共同研究助成で申請する総額が 175 万円を超えないこと。（例：研究代表者としての申請金額 100 万円＋他共同研究の共同研究者としての申請金額 20 万円×4 件＝180 万円は不可） ・一つの共同研究テーマで申請する研究助成費の総額が 180 万円を超えないこと。 ・1 人が複数の KNIT 共同研究の共同研究者となる場合、【研究助成の額】B に記載する上限額は共同研究毎に適用される。ただし、その実行妥当性については審査時に考慮される。 （5）その他 ・本事業の趣旨から、共同研究者には女性研究者が参加していることが望ましいため、審査においてはその点を加味する。 ・同じテーマで他の研究費助成を受けていないこと。 ・他連携機関所属の研究者に対する助成金額については、当該研究者所属機関の募集要項を参照すること。 【助成対象研究経費】 設備用品費（50 万円以上の購入経費）、消耗品費、旅費（当該研究成果の発表に係る学会参加、当該研究に係る打合せ等、但し外国旅費は不可。）、その他必要な経費（諸謝金、通信運搬費、借料、雑務費） 上記対象経費に含まれる場合でも、他機関所属の研究代表者や共同研究者に対する支出はできない。 【助成金の配分と執行期間】 ・助成金は、採択が決定し、研究者が所属する機関にて共同研究契約を締結後に配分する。 ・助成金の執行期間は、共同研究契約締結後から 2021 年度 2 月末までとする。 【申請方法】 ・本学に所属する研究代表者は、所定の申請書を男女共同参画推進室宛にリソコムネットワーク又は電子メールにて提出すること。 （他連携機関に所属する共同研究者には該当機関へ申請書のコピーを提出するようお願いください。）

・本学に所属する共同研究者は、<u>研究代表者が所属機関に提出した申請書のコピー</u>を、男女共同参画推進室宛にリソコムネットワーク又は電子メールにて提出すること。 申請期限 2021 年 2 月 1 日（月）正午 【選考について】 ・北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク審査委員会により選考と助成額を決定し、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議で採択が承認される。 ・選考は、審査委員会が定めた以下の観点より行う。 A) 研究の背景・目的が誰でも理解できるよう表現されていること B) 研究計画が目的に対して妥当であること C) 共同研究であることの意義・役割分担が明確に説明されていること D) 研究助成を通じて、リーダーとしての成長が期待できること E) 予算計画は研究計画に対して妥当であること F) 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークが主催する異分野交流イベントへの参加が積極的であること 【結果通知】 2021 年 4 月上旬予定。申請者すべてに通知する。 【その他】 ・採択された場合、本事業において実施する研修やシンポジウム等に、積極的に参加すること。 ・研究代表者は当該年度の実施期間終了後に、指定様式の実施報告書（収支報告含む）を男女共同参画推進室に提出すること。 ・採択された申請については、研究タイトルと申請者所属、共同研究者所属名を北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークの WEB サイト、男女共同参画推進室の発行物等に掲載する。その他の事項については申請者の許可を得た上で掲載することがある。	申請書の提出先・お問合せ先： 室蘭工業大学 男女共同参画推進室 電 話：0143-46-5018 メー ル：uf@mmm.muroran-it.ac.jp
--	--

● 2021 年度 KNIT 共同研究助成 募集要項【帯広畜産大学】

【帯広畜産大学】 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」 2021 年度 KNIT 共同研究助成 募集要項 【趣旨】 科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（2019 年度～2024 年度）の一環として、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）の連携機関（以下、「KNIT 連携機関」という。）である北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社における女性研究者の研究力の向上やリーダースキルの強化、また北海道の研究ネットワークの拡大を目的とし、KNIT 連携機関研究者と優れた共同研究（KNIT 共同研究）を計画する研究者（研究代表者については女性研究者限定）に対して研究費助成を行います。 【研究助成の額】 A. 本学に所属する研究代表者が採択となった場合、1 件最大 100 万円。 B. 本学に所属する共同研究者が採択となった場合、一人あたり 1 件最大 25 万円。 2021 年度 KNIT 共同研究助成の総額に関する条件は【応募要件】（４）申請金額の条件を参照のこと。 【応募要件】 （１）共同研究チームの構成 ・KNIT 連携機関に所属する女性研究者を研究代表者とし、研究代表者とは異なる KNIT 連携機関の研究者少なくとも 1 名を共同研究者とすること。この条件を満たす場合は、KNIT 連携機関以外の研究者が共同研究者として参画することを妨げない。なお、研究代表者と共同研究者の詳細については以下のとおりとする。 ①研究代表者 ・異分野 meetup week2020 へポスター出展参加^{※1}した<u>女性研究者</u>（特任教員、特任研究員、特任獣医師、博士研究員、学術研究員を含む^{※2}）。 ②共同研究者 ・大学、企業、その他機関に所属する研究職の者（特任教員、特任研究員、特任獣医師、博士研究員、学術研究員を含む^{※2}）で、性別は問わない。 ・共同研究者への研究費助成は KNIT 連携機関の大学に所属する研究者のみが対象となる。 ・異分野 meetup week2020 への参加実績があることが望ましく、審査において加味される。 ※1 ポスター出展者の他に、ポスターへ連名で名前を掲載し、異分野 meetup week 2020 へ参加登録をした者を含む。 ※2 共同研究の中で資力を果たすために十分なウェイトを確保でき、雇用条件に反していない場合	（２）複数の KNIT 共同研究申請 ・一人の研究者が研究代表として申請できる KNIT 共同研究は 1 件に限る。 ・研究代表者が他の KNIT 共同研究の共同研究者になることを妨げない。 （３）2020 年度 KNIT 共同研究助成採択者の申請 ・2020 年度 KNIT 共同研究助成採択者は、新規テーマまたは 2020 年度採択テーマから発展的な内容であることが明らかである場合申請することができる。 （４）申請金額 ・申請者一人あたり、年度 KNIT 共同研究助成で申請する総額が 175 万円を超えないこと。（例：研究代表者としての申請金額 100 万円＋他共同研究の共同研究者としての申請金額 20 万円×4 件＝180 万円は不可） ・一つの共同研究テーマで申請する研究助成費の総額が 180 万円を超えないこと。 ・1 人が複数の KNIT 共同研究の共同研究者となる場合、【研究助成の額】B に記載する上限額は共同研究毎に適用される。ただし、その実行妥当性については審査時に考慮される。 （５）その他 ・本事業の趣旨から、共同研究者には女性研究者が参加していることが望ましいため、審査においてはその点を加味する。 ・同じテーマで他の研究費助成を受けていないこと。 ・他連携機関所属の研究者に対する助成金額については、当該研究者所属機関の募集要項を参照すること。 【助成対象研究経費】 設備備品費（50 万円以上の購入経費）、消耗品費、旅費（当該研究成果の発表に係る学会参加、当該研究に係る打合せ等、但し外国旅費は不可。）、その他必要な経費（諸謝金、通信運搬費、借損料、雑役務費） 上記対象経費に含まれる場合でも、他機関所属の研究代表者や共同研究者に対する支出はできない。 【助成金の配分と執行期間】 ・助成金は、採択が決定し、研究者が所属する機関間にて共同研究契約を締結後に配分する。 ・助成金の執行期間は、共同研究契約締結後から 2021 年度 2 月末までとする。 【申請方法】 ・本学に所属する研究代表者は、所定の申請書を総務課労務係宛に電子メールにて提出すること。 ・（他連携機関に所属する共同研究者には該当機関へ申請書のコピーを提出するようお願いください。）
--	--

・本学に所属する共同研究者は、<u>研究代表者が所属機関に提出した申請書のコピー</u>を、総務課労務係宛に電子メールにて提出すること。 申請期限 2021 年 2 月 1 日（月）正午 【選考について】 ・北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク審査委員会により選考と助成額を決定し、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議で採択が承認される。 ・選考は、審査委員会が定めた以下の観点より行う。 A) 研究の背景・目的が誰でも理解できるよう表現されていること B) 研究計画が目的に対して妥当であること C) 共同研究であることの意義・役割分担が明確に説明されていること D) 研究助成を通じて、リーダーとしての成長が期待できること E) 予算計画は研究計画に対して妥当であること F) 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークが主催する異分野交流イベントへの参加が積極的であること 【結果通知】 2021 年 4 月上旬予定。申請者すべてに通知する。 【その他】 ・採択された場合、本事業において実施する研修やシンポジウム等に、積極的に参加すること。 ・研究代表者は当該年度の実施期間終了後に、指定様式の実施報告書（収支報告含む）を総務課労務係に提出すること。 ・採択された申請については、研究タイトルと申請者所属、共同研究者所属名を北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークの WEB サイト、男女共同参画推進室の発行物等に掲載する。その他の事項については申請者の許可を得た上で掲載することがある。 申請書等の提出先・お問合せ先： 帯広畜産大学 総務課労務係（生田・加藤） 電話：0155-49-5221 メール：zinzi@obhihiro.ac.jp
--

● 2021 年度 KNIT 共同研究助成 募集要項【北見工業大学】

【北見工業大学】 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」 2021 年度 KNIT 共同研究助成 募集要項	
【趣旨】 科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（2019 年度～2024 年度）の一環として、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）の連携機関（以下、「KNIT 連携機関」という。）である北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社における女性研究者の研究力の向上やリーダースキルの強化、また北海道の研究ネットワークの拡大を目的とし、KNIT 連携機関研究者と優れた共同研究（KNIT 共同研究）を計画する研究者（研究代表者については女性研究者限定）に対して研究費助成を行います。 【研究助成の額】 A. 本学に所属する研究代表者が採択となった場合、1 件最大 150 万円。 B. 本学に所属する共同研究者が採択となった場合、一人あたり 1 件最大 20 万円。 2021 年度 KNIT 共同研究助成の総額に関する条件は【応募要件】（4）申請金額の条件を参照のこと。 【応募要件】 （1）共同研究チームの構成 ・KNIT 連携機関に所属する女性研究者を研究代表者とし、研究代表者とは異なる KNIT 連携機関の研究者少なくとも 1 名を共同研究者とすること。この条件を満たす場合は、KNIT 連携機関以外の研究者が共同研究者として参画することを妨げない。なお、研究代表者と共同研究者の詳細については以下のとおりとする。 ①研究代表者 ・異分野 meetup week2020 へポスター出展参加^{※1}した女性研究者（特任教員及び研究員等を含む^{※2}）。 ②共同研究者 ・大学、企業、その他機関に所属する研究職の者（特任教員及び研究員等を含む^{※2}）で、性別は問わない。 ・共同研究者への研究費助成は KNIT 連携機関の大学に所属する研究者のみが対象となる。 ・異分野 meetup week2020 への参加実績があることが望ましく、審査において加味される。 ※1 ポスター出展者の他に、ポスター一連名で名前を掲載し、異分野 meetup week 2020 へ参加登録をした者を含む。 ※2 共同研究の中で責務を果たすために十分なエフォートを確保でき、雇用条件に反していない場合	（2）複数の KNIT 共同研究申請 ・一人の研究者が研究代表として申請できる KNIT 共同研究は 1 件に限る。 ・研究代表者が他の KNIT 共同研究の共同研究者になることを妨げない。 （3）2020 年度 KNIT 共同研究助成採択者の申請 ・2020 年度 KNIT 共同研究助成採択者は、新規テーマまたは 2020 年度採択テーマから発展的な内容であることが明らかである場合申請することができる。 （4）申請金額 ・申請者一人あたり、年度 KNIT 共同研究助成で申請する総額が 175 万円を超えないこと。（例：研究代表者としての申請金額 100 万円＋他共同研究の共同研究者としての申請金額 20 万円×4 件＝180 万円は不可） ・一つの共同研究テーマで申請する研究助成費の総額が 180 万円を超えないこと。 ・1 人が複数の KNIT 共同研究の共同研究者となる場合、【研究助成の額】B に記載する上限額は共同研究毎に適用される。ただし、その実行妥当性については審査時に考慮される。 （5）その他 ・本事業の趣旨から、共同研究者には女性研究者が参加していることが望ましいため、審査においてはその点を加味する。 ・同じテーマで他の研究費助成を受けていないこと。 ・他連携機関所属の研究者に対する助成金額については、当該研究者所属機関の募集要項を参照すること。 【助成対象研究経費】 設備備品費（50 万円以上の購入経費）、消耗品費、旅費（当該研究成果の発表に係る学会参加、当該研究に係る打合せ等、但し外国旅費は不可。）、その他必要な経費（諸謝金、通信運搬費、借送料、雑役務費） 上記対象経費に含まれる場合でも、他機関所属の研究代表者や共同研究者に対する支出はできない。 【助成金の配分と執行期間】 ・助成金は、採択が決定し、研究者が所属する機関間にて共同研究契約を締結後に配分する。 ・助成金の執行期間は、共同研究契約締結後から 2021 年度 2 月末までとする。 【申請方法】 ・本学に所属する研究代表者は、所定の申請書をダイバーシティ推進室宛に電子メールにて提出すること。 （他連携機関に所属する共同研究者には該当機関へ申請書のコピーを提出するようお願いください。）

・本学に所属する共同研究者は、研究代表者が所属機関に提出した申請書のコピーを、ダイバーシティ推進室宛に電子メールにて提出すること。 申請期限 2021 年 2 月 1 日（月）正午 【選考について】 ・北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク審査委員会により選考と助成額を決定し、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議で採択が承認される。 ・選考は、審査委員会が定めた以下の観点より行う。 A) 研究の背景・目的が誰でも理解できるよう表現されていること B) 研究計画が目的に対して妥当であること C) 共同研究であることの意義・役割分担が明確に説明されていること D) 研究助成を通じて、リーダーとしての成長が期待できること E) 予算計画は研究計画に対して妥当であること F) 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークが主催する異分野交流イベントへの参加が積極的であること 【結果通知】 2021 年 4 月上旬予定。申請者すべてに通知する。 【その他】 ・採択された場合、本事業において実施する研修やシンポジウム等に、積極的に参加すること。 ・研究代表者は当該年度の実施期間終了後に、指定様式の実施報告書（収支報告含む）をダイバーシティ推進室宛に提出すること。 ・採択された申請については、研究タイトルと申請者所属、共同研究者所属名を北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークの WEB サイト、ダイバーシティ推進室宛の発行物等に掲載する。その他の事項については申請者の許可を得た上で掲載することがある。	申請書等の提出先・お問合せ先： 北見工業大学ダイバーシティ推進室（総務課人事担当） 電話：0157-26-9115 メール：soumu06@desk.kitami-it.ac.jp
--	---

・セミナー「ライフイベント期にある教員への支援制度の紹介」

開催日時：9月15日 12:20～12:50

主催：北見工業大学

座談会参加者：ダイバーシティ推進室 室長 柴野 純一 氏
副室長 川村 みどり 氏

応用化学系 准教授 陽川 憲 氏

応用化学系 助教 小針 良仁 氏

・座談会「意外とやってる!?男性の家事、育児」

開催日時：9月16日 12:00～13:00

主催：北海道大学

ゲスト：室蘭工業大学 ひと文化系領域 准教授 三村 竜之氏
北海道大学 大学院先端生命科学研究院 助教 塚本 卓氏

・セミナー「パパからパパへのメッセージ

～若手教員編・ベテラン教員編～」

開催日時：動画配信

主催：帯広畜産大学

ゲスト：グローバルアグロメディシン研究センター

助教 福岡 直希 氏（インタビュー）

グローバルアグロメディシン研究センター

助教 渡邊 謙一 氏

農学情報基盤センター 講師 齊藤 準 氏

生命・食料科学研究部門 教授 島田 謙一郎 氏

生命・食料科学研究部門 准教授 花田 正明 氏

<研究サロン>

・研究サロン「“つわり”は何故おこる？

～行き当たりばったり研究人生のこれまでとこれから～

開催日時：9月22日 14:30～15:30

主催：北海道大学

ゲスト：北海道大学大学院獣医学研究院 矢野（梨本）沙織 氏

北海道大学大学院医学研究院 木村 尚史 氏（聞き手）

・研究サロン「分かりやすい」コミュニケーションとは何か

- 自然会話と「やさしい日本語」

開催日時：9月24日 14:30～15:30

主催：北海道大学

ゲスト：北海道大学高等教育推進機構 平田 未季 氏

室蘭工業大学ひと文化系領域 山路 奈保子 氏（聞き手）

・研究サロン「“材料”と名前がつく研究領域の

ひろーい世界」

開催日時：9月24日 16:00～17:00



異分野
meetup
2021

北見工業大学
ダイバーシティ座談会

ライフイベント期にある教員への
支援制度の紹介

日時:令和3年9月16日(水) 12:20～12:50
開催形式:オンライン(webex)

ダイバーシティ推進室
室長 柴野 純一、副室長 川村みどり
応用化学系
准教授 陽川 憲、助教 小針 良仁

北見工業大学では、今年度から新たに「ライフイベント期にある教員への支援制度」が始まりました。
ダイバーシティ推進室長から本制度の紹介、また利用している教員側からの感想・要望等を交えた座談会を開きます。本制度を多くの皆さんに知っていただくとともに、より利用しやすい支援制度の在り方を考えたいと思います。

北見工業大学ダイバーシティ推進室
〒090-8507 北見市公園町165番地
TEL:0157-26-9115
E-mail:soumu06@desk.kitami-it.ac.jp





異分野
meetup
2021

KNIT a Network !
研究者座談会

2021年度テーマ“MY LIFE”

意外とやってる!?
男性の家事、育児

これまで女性ゲストの人生や日常生活、経験についてお話を聞いてきました。今回は、パートナー様からの家事、育児研究との両立、そして人生についてお話を伺います。

9/16(Thu)
12:00-13:00

室蘭工業大学 大学院工学研究科
ひと文化系領域 准教授
三村 竜之 先生

北海道大学 大学院
先端生命科学研究院 助教
塚本 卓 先生

KNIT a Network! ロールをずる紹介番組とは、研究に携わっている人々の生活、いろいろな人の人生から、キャリアや暮らしの事例になる7PMを、皆さまのオンライン参加を促します。

お申込はこちらから→
申込締切：9/16(Thu)10:00
<https://bit.ly/3mQ9uRl>





異分野
meetup
2021

オンライン研究サロン

“つわり”は何故おこる？
～行き当たりばったり研究人生の
これまでとこれから～

Online Free どなたでもご参加いただけます

<研究についてお話ししてくれる人>
北海道大学大学院獣医学研究院 矢野(梨本)沙織先生
北海道大学大学院医学研究院 木村尚史先生(聞き手)

<内容>
つわりは妊娠の約70-80%が経験し、吐き気・嘔吐・食欲不振・倦怠感の増加・視覚聴覚の変化といった様々な症状により、日常生活や仕事等に多大な影響を及ぼします。この現象を妊娠、家族、友人、同僚など、身近に経験した方であれば、その深刻さについて疑問に思う方が多いと思いますが、意外なことにつわりの原因は現在ではよくわかっていません。
獣医学である北海道大学 矢野沙織先生が、どのようにしてつわりの謎に迫るか、また何故つわりを研究テーマとして選んだのか、このテーマにたどり着くまでの学生時代から現在までの経緯も交え、ぜひ皆さんにお話しします。

<開催日時>
9/22 (WED)
14:30 - 15:30

こちらからお申し込みください。
<https://bit.ly/3tq4822>

本イベントは、北海道大学COP(人と動物の共生)の協力のもと、開催いたします。

<お問い合わせ>
北海道ダイバーシティ・研究推進推進室スタッフ(KNIT)事務局
メール kunita@desk.kitami-it.ac.jp
電話 0157-26-9125



主催 北海道ダイバーシティ・研究推進推進室スタッフ
(北海道大学、室蘭工業大学、旭川医科大学、北見工業大学、函館医科大学、日本獣医生命科学大学)



主催：北海道大学

ゲスト：北見工業大学地球環境工学科 金 敬鎬 氏
室蘭工業大学大学院工学研究科 しくみ解明系領域
庭山 聡美 氏

・研究サロン「私たちの“おいしい”を支えるもの。
～食と制度と経済のマリアージュ～」

開催日時：9月28日 14:30～15:30

主催：北海道大学

ゲスト：帯広畜産大学環境農学研究所 窪田 さと子 氏
帯広畜産大学畜産フィールド科学センター
川島 千帆 氏（聞き手）

< KNIT 共同研究助成採択者交流会 >

開催日時：9月27日 15:30～16:30

9月29日 15:00～16:30

参加者：2021年度 KNIT 共同研究助成

採択者 37 名（11 テーマ口頭発表）

< 研究シーズ集取材記事 >

KNIT 連携機関の大学が編集している研究シーズ集紹介記事を作成、KNIT WEB サイト上にて公開。

（室蘭工業大学、北見工業大学、帯広畜産大学、北海道大学）



- Toward innovation beyond boundaries -
異分野 meetup 2021
オンライン研究サロン

「分かりやすい」コミュニケーション
とは何か
～自然会話と「やさしい日本語」～

Online Free どなたでもご参加いただけます
< 研究についてお話ししてくれる人 >
北海道大学高等教育推進機構 平田 未季 先生
室蘭工業大学ひと文化系領域 山路 奈保子 先生（聞き手）

< 内容 >
多文化共生が叫ばれる現在では、共生の手段として「やさしい日本語」が注目されています。「やさしい日本語」は、様々な言語を母語とする人たちへ、わかりやすい伝達のために使用語彙や文法の構造に一定のルールを設けるものです。一方、私たちが普段行っている自然会話の最大の特徴は、音声によって短いターンを素早くやりとりすることであり、人の言語はこのようなやりとりで成り立つ形に発達しています。研究サロンでは、自然会話の特徴と「やさしい日本語」を比較しながら、改めて「わかりやすい」コミュニケーションとは何かということを考えます。

< 開催日時 >
9/24 (FRI)
14:30 - 15:30
< 申込方法 >
こちらからお申込ください。
<https://bit.ly/38f112p>

< お問い合わせ >
北海道ダイバーシティ研究推進連携ネットワーク (KNIT) 事務局
メール knit@professor.hokudai.ac.jp
電話 011-706-3625

主催 北海道ダイバーシティ研究推進連携ネットワーク
(北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アイ・エックス、日東電工株式会社) KNIT

- Toward innovation beyond boundaries -
異分野 meetup 2021
オンライン研究サロン

“材料”と名前がつく研究領域の
ひろーい世界

Online Free どなたでもご参加いただけます
< 研究についてお話ししてくれる人 >
北見工業大学地球環境工学科 金 敬鎬 先生
室蘭工業大学大学院工学研究科 しくみ解明系領域 庭山 聡美 先生

< 内容 >
科学研究費助成事業（科研費）の区分を見ると、“材料”が入っている区分が多くあることから（金属材料物理化学、ナノ材料科学関連、高分子材料関連、有機機能材料関連など）、様々な材料と、材料となるまでのプロセスや特性が研究されていることがわかります。この研究サロンでは、最新の電子材料の研究を専門とされている北見工業大学 金先生と、有機材料の分野に欠かせない有機合成化学を専門とされている室蘭工業大学 庭山先生の研究のお話を聞きながら、“材料”に関わる研究領域で取り組んでいる社会課題や科学課題を共有します。

< 開催日時 >
9/24 (FRI)
16:00 - 17:00
< 申込方法 >
こちらからお申込ください。
<https://bit.ly/3DU0eB8>

< お問い合わせ >
北海道ダイバーシティ研究推進連携ネットワーク (KNIT) 事務局
メール knit@professor.hokudai.ac.jp
電話 011-706-3625

主催 北海道ダイバーシティ研究推進連携ネットワーク
(北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アイ・エックス、日東電工株式会社) KNIT

- Toward innovation beyond boundaries -
異分野 meetup 2021
オンライン研究サロン

私たちの“おいしい”を支えるもの。
～食と制度と経済のマリアージュ～

Online Free どなたでもご参加いただけます
< 研究についてお話ししてくれる人 >
帯広畜産大学環境農学研究所 窪田さと子先生
帯広畜産大学畜産フィールド科学センター 川島千帆先生（聞き手）

< 内容 >
私たちの食べ物がどのように作られ、運ばれ、食卓に届くかはおよそその影響が付きまが、今回は、「安心して」「いづつでも」食べられるために取り組まれているこの研究サロンです。食べ物にまつわる研究サロンなので、ぜひおやつを持参してご参加ください。今手にとっているその食べ物が、安心して味わうことができる背景をより実感できるかもしれません。

< 開催日時 >
9/28 (TUE)
14:30 - 15:30
< 申込方法 >
こちらからお申込ください。
<https://bit.ly/30772a>

< お問い合わせ >
北海道ダイバーシティ研究推進連携ネットワーク (KNIT) 事務局
メール knit@professor.hokudai.ac.jp
電話 011-706-3625

主催 北海道ダイバーシティ研究推進連携ネットワーク
(北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アイ・エックス、日東電工株式会社) KNIT

北海道大学の取組

女性研究者による研究会等開催支援

本事業は、本学の女性研究者が研究会等の開催を通じてリーダースキルを強化すること、また研究発展につながるネットワークを構築する事を目的とし、本学の女性研究者が中心となって企画するシンポジウムや研究会等の実施に必要な経費等を支援するものである。

今年度は3件の支援を行った。

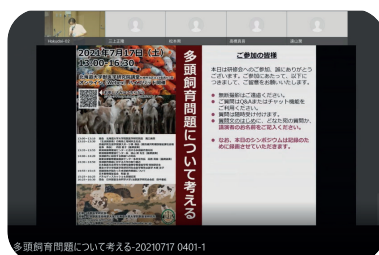
- 名称 多頭飼育問題について考える
- 開催日時 2021年7月17日 13:00～16:30
- 場所 北海道大学獣医学研究院講堂
オンライン（ハイブリッド開催）
- 参加者数 約130名（オンライン約120名、対面約10名）
- 講演者 内田 夏子氏（栃木県高根沢町生涯学習課スポーツ係 係長）
遠山 潤氏（新潟県動物愛護センター長）
高橋 真吾氏（前東京都動物愛護相談センター多摩支所長）
- 実施責任者 大学院獣医学研究院 教授

支援報告書より抜粋

今回のシンポジウム参加者は、自治体行政関係者、民間NGO、保健関係者、法学関係者、動物病院獣医師、大学教員、学生と、多様な職域、分野から参加があった。

特に今回、法獣医学研究分野に新たに福祉問題を取り上げた企画となっており、今回のシンポジウムの実施によって、課題解決に理系・文系の融合した取り組みが必要であることが関係者に改めて認識された。

法獣医学は日本ではまだ普及していない新しい分野であるが、学際的な学問分野として多様な人材を巻き込んだ研究を推進する環境を整えることができた。



- **名称** 第1回北海道地域日本語教育シンポジウム
『もやもや』を持ち寄ろう アイディアを持ち帰ろう
- **開催日時** 2022年1月29日 13:00～16:30
- **場所** オンライン: Zoom
- **参加者数** 107名
- **プログラム**

＜第一部＞

私たちの現在地

基調講演「国の施策にみる多文化共生と日本語教育の現在地」

武蔵野大学 准教授 神吉 宇一 氏

セッション「道ってどうでしょう」

北海道総合政策部国際局国際課 課長補佐 柴谷 美加 氏

＜第二部＞

「もやもや」話します

1. いろはの会（北見市）
2. 釧路国際交流の会（釧路市）
3. 滝川国際交流協会（滝川市）
4. 江別国際センター（江別市）
5. 日本語サロン（室蘭市）
6. やさしい日本語びばい（美唄市）
7. (一社) DOLEAGUE（富良野市）
8. 友ランゲージアカデミー札幌校（札幌市）
9. (株) 栄友（東川町）

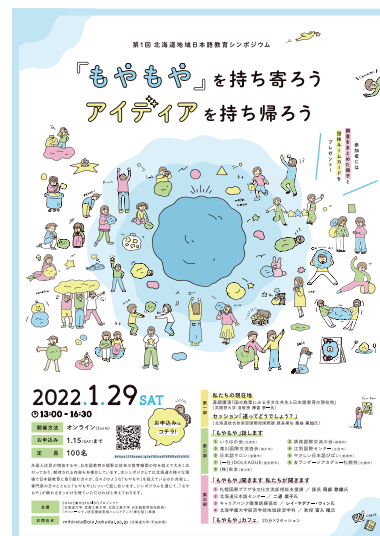
＜第三部＞

「もやもや」聞きます 私たちが聞きます

1. 札幌国際プラザ多文化交流部相談支援課 課長 岡部 歌織 氏
2. 北海道日本語センター 二通 信子 氏
3. キャリアバンク職業訓練協会 レイ・ヤダナー・ウィン 氏
4. 北海学園大学経済学部地域経済学科 教授 宮入 隆 氏

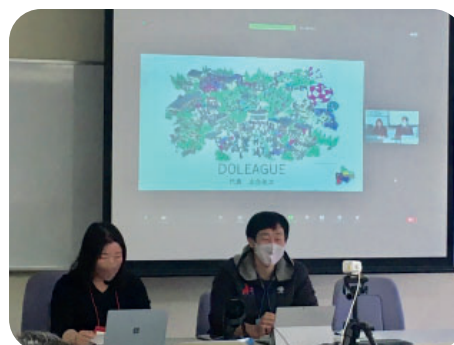
「もやもや」カフェ 20分×2セッション

- **主催** KNIT 共同研究助成チーム / SHAKE ★ HOKKAIDO プロジェクト
(北海道大学、室蘭工業大学、北見工業大学 日本語教育担当教員)



支援報告書より抜粋

北海道大学、室蘭工業大学、北見工業大学の教員5名でシンポジウムを企画・開催した。シンポジウムは(1)北海道で日本語教育に関わる多様なアクター間にゆるやかなネットワークを作ること、(2)行政関係者・専門家と現場の実践者を繋ぐことを目的として行われた。(1)に関して、各教員が関わりを持つ地域の9団体・個人にインタビュー調査を行い、共同で発表の準備を行った。(2)に関して、行政関係者・他分野の専門家6名にシンポジウムの趣旨、北海道の地域日本語教育の課題を伝え、共に発表内容を検討した。(1)、(2)合わせて20名の発表者と目的・内容の方向性を常に確認しながら、チームで準備を進めることができた。また今後も同チームでシンポジウム開催を継続することを確認した。



その他支援 1 件

● 2021 年度 女性研究者による研究会等開催支援 募集要項

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」 2021 年度 女性研究者による研究会等開催支援 募集要項																	
【概要】 本学は科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（2019年度～2024年度）に採択され、全学的なダイバーシティ研究環境の推進とともに、研究リーダーや大学マネジメントを担う女性研究者の増加を目指しています。 そこで、本学の女性研究者が、研究会等の開催を通じてリーダースキルを強化するとともに、研究発展につながるネットワークを構築することを目的とし、下記の支援を実施いたします。 【支援内容】 本支援は、本学の女性研究者が中心となって企画するシンポジウムや研究会等の実施に必要な経費の一部（上限 30 万円）と、イベント運営に関するツールを支援します。 【支援要件】 研究会等について、以下の条件を全て満たす必要があります。 - 本学に所属する女性研究者（特任教員・研究員を含む）が主宰する学術的企画であること - シンポジウム、セミナー、ワークショップ、研究会のいずれかに類すること - 講師、企画者以外に 10 名以上の参加が見込まれること - 2022 年 1 月 31 日までに開催すること - ダイバーシティ研究環境推進室を共催すること - 広報物を作成する場合、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業の文言を入れること	【支援対象となる経費】 次の経費に限り、本学規定に沿って支出することができます。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>費目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人件費</td> <td>当日の運営を補助する短期支援員の人件費 ただし、短期支援員の募集や雇用手続きを各部署等で行う場合に限り支援対象となります。 なお、既に他の経費で雇用されている者の発令変更は認められておりませんので、新たに雇用の発令ができる方のみが支援対象となります。</td> </tr> <tr> <td>国内旅費</td> <td>講師等※の国内旅費</td> </tr> <tr> <td>外国人招聘旅費</td> <td>講師等※の海外招聘旅費</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td>講師等※への謝金</td> </tr> <tr> <td>印刷費</td> <td>研究会等の広報のためのポスター、チラシ、配布資料の印刷費</td> </tr> <tr> <td>委託費</td> <td>会場設営、広報物デザイン、当日の参加者に対する一時保育サービス、あるいはダイバーシティ研究環境推進室が個別に認めた業務を外部委託する際の委託費</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>企画を実施する上で必要不可欠であり、参加者（受益者）が負担することが適当ではない消耗品 ただし、いかなる場合も飲食物は支援対象外</td> </tr> </tbody> </table> ※旅費や謝金の支払い対象となる基調講演者および主講師は、研究会等の広報物に「基調講演者」あるいは主たる「講師」として名前を記載してください。 【その他の支援】 - 参加申し込みフォーム設置 - 企画実施に必要な基本物品の貸出 - 大判プリンター出力 【文書件数】 3件程度	費目	内容	人件費	当日の運営を補助する短期支援員の人件費 ただし、短期支援員の募集や雇用手続きを各部署等で行う場合に限り支援対象となります。 なお、既に他の経費で雇用されている者の発令変更は認められておりませんので、新たに雇用の発令ができる方のみが支援対象となります。	国内旅費	講師等※の国内旅費	外国人招聘旅費	講師等※の海外招聘旅費	謝金	講師等※への謝金	印刷費	研究会等の広報のためのポスター、チラシ、配布資料の印刷費	委託費	会場設営、広報物デザイン、当日の参加者に対する一時保育サービス、あるいはダイバーシティ研究環境推進室が個別に認めた業務を外部委託する際の委託費	消耗品費	企画を実施する上で必要不可欠であり、参加者（受益者）が負担することが適当ではない消耗品 ただし、いかなる場合も飲食物は支援対象外
費目	内容																
人件費	当日の運営を補助する短期支援員の人件費 ただし、短期支援員の募集や雇用手続きを各部署等で行う場合に限り支援対象となります。 なお、既に他の経費で雇用されている者の発令変更は認められておりませんので、新たに雇用の発令ができる方のみが支援対象となります。																
国内旅費	講師等※の国内旅費																
外国人招聘旅費	講師等※の海外招聘旅費																
謝金	講師等※への謝金																
印刷費	研究会等の広報のためのポスター、チラシ、配布資料の印刷費																
委託費	会場設営、広報物デザイン、当日の参加者に対する一時保育サービス、あるいはダイバーシティ研究環境推進室が個別に認めた業務を外部委託する際の委託費																
消耗品費	企画を実施する上で必要不可欠であり、参加者（受益者）が負担することが適当ではない消耗品 ただし、いかなる場合も飲食物は支援対象外																

【申請方法】 所定の申請書をダイバーシティ研究環境推進室宛に電子メールにて提出 してください。 申請締め切り 2021 年 11 月 30 日 ＊採択金額が予算額の上限に達した場合には、その時点で募集を終了します。 【審査方法】 申請者より提出された書類に基づき、ダイバーシティ研究環境推進室にて審査を行い、採否及び支援金額を決定します。申請書の受理連絡後、2 週間以内に採択可否を連絡します。 条件付き採択の場合は、ダイバーシティ研究環境推進室との面談後、申請書を再提出していただきます。 【経費執行方法】 基本的に部局等へ支援金額の予算振替を行い、経費を執行していただきます。 なお、万が一残額が発生する場合は速やかに返還いただきます。 【実施報告】 研究会等の開催終了後 30 日以内に指定書式の実施報告書（収支報告含む）及び作成した広報物を提出してください。収支報告については、部局等の事務と調整の上、ご作成ください。また、企画を実施した様子がわかる写真を数枚お送りいただけます。お送りいただく写真には、本事業のウェブサイトに掲載可能なものを少なくとも 1 枚含めてください。 【備考】 本支援を受けた研究会等に関連する研究活動について、支援終了後 3 年間追跡調査を行う予定です。ご協力をお願いいたします。 【お問合せ】 申請にあたりご不明点等がある場合は、下記お問合せ先までご連絡ください。	お問合せ先： 北海道大学人材育成本部 ダイバーシティ研究環境推進室 電話：011-706-3625 メール：reed@synfoster.hokudai.ac.jp
--	--

次世代リーダーシップ研究者「円卓会議」開催

京都大学 L-INSIGHT と共催して、次世代リーダーシップ研究者「円卓会議」をオンラインにて開催した。この円卓会議では、全ての研究者が『個性と能力を十分に発揮し、新たな世界を創造するために必要な研究環境の整備に関する取り組みを紹介しつつ、女性研究者がリーダーシップを発揮する際の課題を明らかにすることを目的とした。また、会議における議論はステートメントとしてまとめ、今後の目標としていく予定となっている。

- **名称** 次世代リーダーシップ研究者『円卓会議』
～女性がリーダーシップを発揮する際の課題を認識し、無意識のバイアスを意識化して解決へ～
- **日時** 2022 年 3 月 8 日 10:00 ～ 16:00
- **場所** オンライン (Zoom および YouTube)
- **参加者数** 午前の部 Zoom:129 名 YouTube:24 名
午後の部 Zoom:119 名 YouTube:23 名
- **主催** 京都大学 世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム (L-INSIGHT)
北海道大学 ダイバーシティ研究環境推進室 (Ree-D)
- **プログラム**
開会あいさつ
Invite Talk1 藤波 優 記者
株式会社朝日新聞社東京本社科学医療部
「記者から見た研究者のジェンダーギャップ」
Invite Talk2 長堀 紀子 特任教授 北海道大学 Ree-D 「無意識のバイアスと女性研究者のリーダーシップ～北海道大学の取組と事例から～」
Round Table1 「若手研究者による無意識バイアスこととはじめ」
Round Table2 「多様な人材が能力を発揮できる研究環境」



北海道大学 Ree-D 長堀 紀子 特任教授



集合写真

その他詳細: 京都大学の WEB サイト

https://www.l-insight.kyoto-u.ac.jp/event/220308_roundtable/

上位職への積極的登用に向けた取組

連携機関全体の取組

研究力向上・リーダー育成セミナー（教員向けセミナー、大学院生向けセミナー）

- **名称** 全4回シリーズ「PIを目指す女性研究者のための Leadership Development Training Program」
- **日時** ① 9月28日 ② 10月19日
③ 11月9日 ④ 11月30日
開催はいずれも 16:00～17:30
- **対象者** KNIT 連携機関に所属する女性研究者
- **場所** オンライン：Zoom
- **参加者数** 各回 8名
- **講師** Dr. Iris WIECZOREK
(IRIS Science Management Inc. 代表)

活動内容・報告

本セミナーは、女性研究者のリーダーシップ・マネジメント力育成を目的とし、2021年9月から2021年11月まで全4回シリーズで開催した。講師には IRIS 科学・技術経営研究所代表 Dr. Iris WIECZOREK (Dr. I. ヴィーツォレック) さんを招き、全4回すべてのプログラムをオンラインで実施した。参加者には各セッション前に講師が出した課題に取り組んでもらい、参加者同士でディスカッションを行うなど、非常に活発でインタラクティブなセミナーとなった。

IRIS INTERNATIONAL IN SCIENCE

PIを目指す女性研究者のための **Online** Leadership Development Training Program

全4回シリーズ★すべてオンラインで開催!

1	Understanding the Dynamics of Diverse Teams	Sep/28/2021 (Tue) 16:00~17:30
2	Motivating the Team	Oct/19/2021 (Tue) 16:00~17:30
3	Effective Problem/Conflict Solving	Nov/9/2021 (Tue) 16:00~17:30
4	Delegating & Supervising Students	Nov/30/2021 (Tue) 16:00~17:30

本セミナーは、リーダーシップと研究マネジメント・スキルの実践的な知識を学ぶ全4回のプログラムです。
This is a four-part seminar series that provides practical knowledge on leadership and research management skills.
定員/Capacity 8

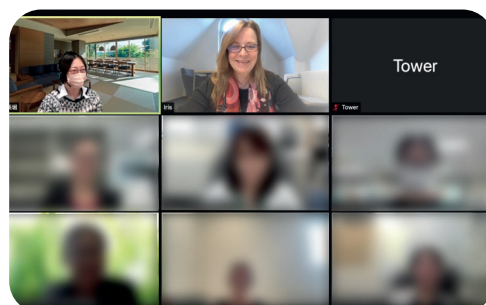
※要領での参加も可能ですが、できる限り全ての回に参加した方が最も望ましいです。本セミナーは英語で行われます。
It is preferable to attend all of the sessions, although it is possible to attend only one session. The seminar will be held in English.

Details & Registration
お申し込みはこちらから
<https://bit.ly/3zmjgg7>

QRコード

IRIS Science Management Inc.
IRIS科学・技術経営研究所

KNIT
北海道大学 学務部 学務課 学務課 学務課
Promotion office of Research environment for Diversity
<http://knit.gyrfoster.hokudai.ac.jp/>



参加者の声

- ・ 経験則でしか考えていなかったリーダーシップについて、より客観的な指標・スタイルを学べた。
- ・ This event provided the grate opportunity for us to learn new things and evaluate the works of ourselves.
- ・ I like the personal 1-1 exchange with lecturer, and exchange between participants.
- ・ Thank you so much for the splendid sessions and networking, which is greatly valuable.
- ・ 世の中の流れによってラボ運営の理想や概念が変わるようになって感じたので、定期的に学ぶ機会を自ら作りアップデートするの必要を感じた。講師の先生が勉強熱心な専門家（PhD 取得）なので、質の高いセミナーを受けられた。

各回テーマ（全4回）

- ① 多様なチームのダイナミクスを理解する / Understanding the Dynamics of Diverse Teams
- ② チームのモチベーション / Motivating the Team
- ③ 効果的な問題・紛争解決 / Effective Problem/ Conflict Solving
- ④ 委任と学生の監督 / Delegating & Supervising Students

北海道大学の取組

上位職を目指す女性研究者のためのメンタリング・シャドウイング研修支援事業

本事業は、キャリアアップを目指す女性研究者が、研究活動や業務のマネジメントについて学ぶために上位職研究者（以下「メンター」という）とのメンタリングやジョブシャドウイングを行う自主的な研修を支援するものである。

本学第3期中期計画では「女性管理職比率を正規教職員全体の15%以上に増加させる」ことが掲げられているが、この研修を通じて上位職や組織運営を行う管理職の実態を身近に感じてもらうことで、新たな視野・知見・意欲を獲得し、女性上位職研究者及び女性管理職の拡大につなげることを目的としている。

2021年度は2件の支援を行った。

- **支援対象者** 北海道大学理学研究院 准教授
- **メンター** 北海道大学理事
- **実施期間** 2021年9月30日～10月26日

実施報告書より抜粋

大学全体を見渡す立場にある方から直にお話を伺うというのは、近視眼的になりがちな研究者にとって非常に意義深い研修で、アクティブに上位職を目指すかどうかに関わらず、他の方にもぜひお勧めしたい（私一人で受けるのはもったいない）、と感じた。

- **支援対象者** 北海道大学薬学研究院 助教
- **メンター** 北海道大学理学研究院 教授
- **実施期間** 2021年11月30日～2022年1月31日

実施報告書より抜粋

メンターを複数選べるようにしてほしい。それぞれのメンターによって考え方や仕事の仕方が異なると思うので、複数の方から研修を受けられた方が自分に合った取り組み方を学べる。

上位職を目指す女性研究者のための メンタリング・ シャドウイング研修 支援事業SP

2021年度
募集開始!

上位職の女性教員（メンター）のもとで、
教育・研究活動やキャリア形成について学べます。

支援内容

【学内メンターの場合】
・メンター・リストの提供、リスト外のメンター候補者への紹介説明等
・異なるキャンパスの学内メンターの場合、研修に必要な旅費（上限あり）
【学外メンターの場合】
・メンターへの謝金、研修に必要な旅費等（いずれも上限あり）

対象者

本学に所属する女性の助教・准教授（特任教員でこれらの職層の者も含む）
（※希望するメンターが学内の研究者の場合、ポストク等の研究員も対象となります）

研修可能期間

2021年6月1日（火）～2022年1月31日（月）まで

締切

2021年11月30日（火）



詳細・お申込はこちら
<https://bit.ly/3GH7Ace>



北海道大学 人材育成本部 ダイバーシティ研究環境推進室
<https://reed.synfoster.hokudai.ac.jp/>
E-mail: reed@synfoster.hokudai.ac.jp

Mentoring & Job Shadowing Training for Female Researchers

Recruitment
for
FY 2021
is open!!

This program supports the "Mentoring and Job Shadowing Training" for female researchers who are highly motivated toward career advancement in academia.

Support content

【On-campus mentor】
Provide a list of mentors, explain the purpose of the project to potential mentors outside the list, etc.
Travel expenses for on-campus mentors from different campuses (up to a limit)
【Off-campus mentor】
Mentor's honorarium, travel expenses for training, etc. (both are subject to an upper limit)

Requirements and eligibility

Female assistant professors, lecturers, and associate professors
(including specially appointed faculty members in these positions) belonging to the HU.
*If the desired mentor is an on-campus researcher, a postdoctoral researcher is also eligible.

Possible training period

1st June 2021 to 31st January 2022

Deadline

30th November 2021



Details and application
<https://bit.ly/3GH7Ace>



Promotion office of Research environment for Diversity(Ree-D)
<https://reed.synfoster.hokudai.ac.jp/>
E-mail: reed@synfoster.hokudai.ac.jp

● 2021 年度 上位職を目指す女性研究者のためのメンタリング・シャドウイング研修支援事業 募集要項

ダイバーシティ研究環境推進イニシアティブ(牽引型) 2021 年度 上位職を目指す女性研究者のための メンタリング・シャドウイング研修支援事業 募集要項

【概要】

本事業は、キャリアアップを目指す女性研究者が、研究活動や業務のマネジメントについて学ぶために上位職の教員(以下「メンター」という)とのメンタリングやジョブシャドウイングを行う自主的な研修を支援するものです。この研修を通じて上位職や組織運営を行う管理職の実態を知り、新たな視野・知見・意欲を獲得し、女性上位職研究者及び女性管理職の拡大につなげることを目的としています。

メンタリングとは

メンタリングとは教育研究活動やキャリア形成についてメンターから直接指導を受けることです。

シャドウイングとは

シャドウイングとはメンターの日々の仕事に同行し、様々なレベルでのコミュニケーションや意思決定を間近に見ることで、上位職研究者としての仕事のスキルや行動規範を学ぶものです。

【期待される研修の効果】

- この研修により、以下のような知見の獲得や効果が期待されます。
- 学生への指導、他の構成員やスタッフとのコミュニケーション能力
- 大学運営や管理的業務に関する知識
- 共同研究の立ち上げ、推進、発展の実態
- 研究プロジェクトの運営方法
- 時間管理や優先順位の付け方等、上位職者のセルフマネジメント
- 上位職者のワークライフバランスの実例
- 計画作成・研修実施・成果報告のプロセスによる自己啓発力の向上
- キャリア形成に関するアドバイス
- 講義の構成
- また、メンターを通じたネットワーク拡大も期待されます。

【シャドウイング実施機会の例】

- メンターが参加する会議、ミーティング
- ラボマネジメント全般
- メンターと学生との研究ディスカッション、論文紹介指導
- 共同研究打ち合わせ
- 博士論文発表練習会
- 授業・ゼミなどの運営
- 研究室に滞在し、様々な場面でセルフマネジメントやコミュニケーションを観察

- 時間管理、優先順位の付け方等のスキル
- 事務対応、研究室スタッフとのコミュニケーション方法
- 1対1での直接指導(メンタリングセッション)

【研修計画における条件ならびに対象者】

研修は、

1. 研修計画の作成
 2. 計画に沿い、メンターによるシャドウイング研修あるいはメンタリング研修を実施
 3. 研修効果について報告書作成
- という3段階で構成され、これらを通して実施することで高い研修効果が期待できます。

A. 希望するメンターが学内の研究者の場合

対象: 本学に所属する女性のポストドク等の研究員、助教、講師、准教授(特任教員でこれらの職層の者も含む)
内容: 1 時間以上のシャドウイングもしくは 1 時間以上の直接指導を、合計 8 時間以上行います。

B. 希望するメンターが学外の研究者の場合

対象: 本学に所属する女性の助教・講師・准教授(特任教員でこれらの職層の者も含む)
内容: 滞在期間中に、シャドウイングと直接指導(メンタリング)を合計 8 時間以上行います。
制限: 研修先は国内に限ります。

※直接指導: 研修者とメンターが研修内容に沿ったテーマで議論を行うこと

【支援内容】

A. 学内メンターの場合

- メンターリストの提供、及びリスト外のメンター候補者への趣意説明
- 異なるキャンパスの学内メンターの下で研修を行う場合、研修に必要な旅費(上限 10 万円)

B. 学外メンターの場合

- メンターへの謝金(上限 5 万円)ただし、メンターが KUNIT 連携機関に所属する場合は支出不可です
- 研修に必要な旅費(上限 15 万円まで)

※KUNIT 連携機関: 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークの共同実施機関である室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、日東電工株式会社、株式会社アノアップ

【メンター】

研修者は、希望する研修内容にふさわしいメンターにあらかじめ内諾を得た上で、本事業への申請をしてください。必要に応じて、ダイバーシティ研究環境推進室からメンター候補者に対して研修の趣旨・意義などを説明し、希望するメンターの下で研修できるよう支援することも可能です。また、メンターの性別は問いません。

【研修可能期間】

2021 年 6 月 1 日～2022 年 1 月 31 日

【申請方法】

申請書に必要な事項を記入し、希望する研修開始日の 6 週間前(最終期限: 2021 年 11 月 30 日)までダイバーシティ研究環境推進室(reed@synfoster.hokudai.ac.jp)までメールで送付してください。
※採択金額が予算額の上限に達した場合には、その時点で募集を終了します。

【事前相談】

メール、電話または事前予約の上での対面相談はいつでも受け付けます。

【審査】

提出いただいた申請書によりダイバーシティ研究環境推進室にて選考を行います。選考の過程で追加の書類提出や面接を求められることがあります。

【主な審査の観点】

上位職への興味、意欲
研修目的および計画の明確さ

【実施報告】

研修終了後 1 か月以内に、指定書式の報告書を提出していただきます。また、学内の女性研究者に広く成果を波及するために、女性研究者交流会を兼ねた報告会にて研修の内容を報告していただく予定です。

【その他】

学外メンターによる研修者には、研修実施に際して秘密保持に係る誓約書へ記名押印いただきます。また、本事業は、科学技術人材育成費補助金「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の一環として実施しているため、必要に応じて書類の提出等を依頼することがあります。

申請書等の提出先・お問合せ先:
北海道大学人材育成本部 ダイバーシティ研究環境推進室
電話: 011-706-3625
メール: reed@synfoster.hokudai.ac.jp

室蘭工業大学の取組

教職員のためのダイバーシティセミナー 2021

教職員のダイバーシティに対する意識向上をめざしたセミナーを毎年開催しており、2021 年度の開催状況は以下の通りである。

- **日時** 2021 年 9 月 13 日 10:30～12:00
- **対象者** 室蘭工業大学教職員、大学・研究機関の研究者、技術者及び職員
その他ダイバーシティに関心のある方
- **場所** Zoom ウェビナーによるオンライン開催
- **参加者数** 46 名
- **講師** お茶の水女子大学 理事・副学長（国際交流・男女共同参画担当）
石井クンツ昌子氏
- **実施主体** 室蘭工業大学男女共同参画推進室

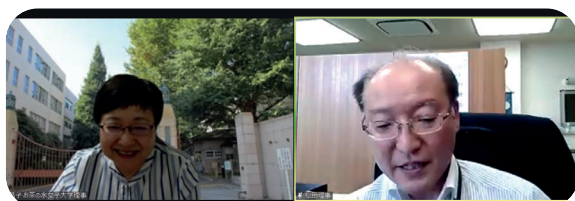
活動内容・報告

今年度のダイバーシティセミナーはオンライン（Zoom ウェビナー）での開催となり、お茶の水女子大学 理事・副学長（国際交流・男女共同参画担当）の石井クンツ昌子 先生をお招きし、「家族から考える男女平等参画ー男性の育児・家事と女性の就労に注目してー」と題してご講演いただいた。

前半ではコロナ下で顕在化した日本の男女共同参画の課題と男女の意識差について、後半では世代間での男性の家庭内役割に対する認識の変化と日本の現状についてや父親の育児・家事参加がもたらす効果などについて、長年の研究に基づく知見からお話いただいた。

子育てする男性が特別視されず「育メン」という言葉でもてはやされることのない社会を目指すことや、ジェンダー平等参画推進の重要性について理解を深めた。

当日は学外の方も含めて計 46 名の参加があり、参加者からは、「自分はもう現役世代ではないけれど、今の世代やこれからの世代の人たちの産休・育休に肯定的でいられる知識を得られた。」「男性の育児休業取得率があがらない、また取得しても日数が短いというのは、どの大学も抱えている課題であり、多くの大学で事例を共有できるとよいと思った。」などの感想が寄せられた。



教職員のためのダイバーシティセミナー2021

家族から考える男女平等参画

ー 男性の育児・家事と女性の就労に注目してー

日時	2021 年 9 月 13 日 (月)	会場	室蘭工業大学 本館棟 3 階 大会議室
	10:30～12:00 (10:00 開場)		※オンライン配信も実施します。
プログラム		講師	
◆開会の挨拶 (10:30～10:35) 室蘭工業大学 室岡 良壽 学長 ◆開演 (10:35～11:35) 「家族から考える男女平等参画ー男性の育児・家事と女性の就労に注目してー」 お茶の水女子大学 石井クンツ昌子 理事・副学長 ◆質疑応答 (11:35～11:55) ◆閉会の挨拶 (11:55～12:00) 室蘭工業大学 松田 雅史 理事・副学長		石井クンツ昌子 氏 お茶の水女子大学 理事・副学長(国際交流・男女 共同参画担当) アメリカケンブリッジ州立大学にて社会学博士号取得後、カリフォルニア大学リバーサイド校社会学部で 20 年間教職を務める。平成 18 年から 14 年間、お茶の水女子大学教授および平成 27 年からは同大学ジェンダー研究所所長を務め、令和 2 年から同大学理事・副学長(国際交流・男女共同参画担当)。 主な研究テーマは家族内性別役割分業、男性の育児・家事、ケアする男性性、家族の IT 活用に関する社会、日本家族社会学会会長、日本社会学会理事、日本家族社会学会家系関係部会役員、国連専門委員会メンバー、内閣府男女共同参画推進専門委員、福祉系男女共同参画推進委員会委員長などを担う。日本学術会議連携会員。 平成 24 年には全米家族関係学会より国際的な家族研究に貢献する「ヤンクトロスト賞」を受賞、著書・共著書に『「育メン」現象の社会学』エッセイ集など多数。	
対象			
全教職員 大学・研究機関の研究者、技術者及び職員 その他ダイバーシティに関心のある方 ※本学の教職員以外の方は事前に E-mail にてお申込みください。			

お問い合わせ
お申し込み

室蘭工業大学 男女共同参画推進室
〒950-8585 北海道室蘭市水元町 27-1
TEL 0143-46-5019
E-mail ufr@mmm.muroran-it.ac.jp
URL https://www.muroran-it.ac.jp/ga_ufr



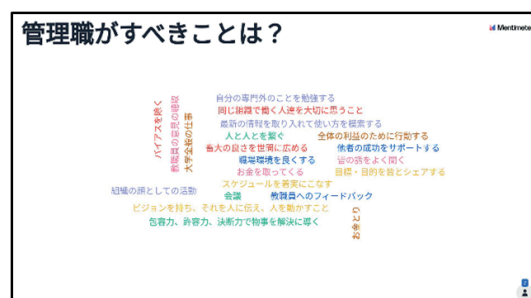
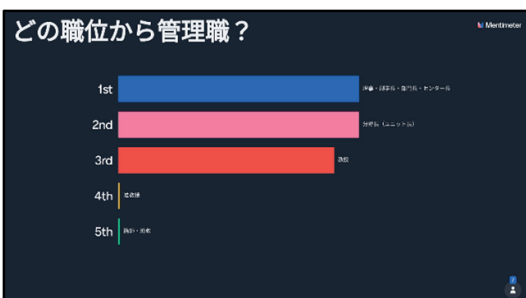
帯広畜産大学の取組

上位職登用セミナー

- **名称** 女性研究職の上位職登用に向けた理事との懇談会
「教員のためのキャリア教育（教授・管理職の仕事について）」
- **日時** 2022年2月24日
- **対象者** 女性教員（准教授・講師・助教）
- **場所** 帯広畜産大学 総合研究棟III号館 603室
- **参加者数** 女性教員7名
- **講師** 帯広畜産大学 理事 井上 昇
- **実施主体** 帯広畜産大学男女共同参画推進室

活動内容・報告

本懇談会は、本学の管理職・上位職の女性教員数が非常に少ないという現状を踏まえ、理事から教授や管理職の業務内容等について講話いただき、その後、女性教員の上位職登用に関する意見交換を行う目的で実施した。懇談会には7名の女性教員が参加し、メンチメーターを用いた意識調査（管理職のメリット・デメリット等）を行いながら、現状の教育・研究センターの仕事との対比や井上理事の経験談に基づき、管理職・上位職への理解を深めた。懇談の中で、研究分野や世代によっては現在、女性優位な環境にあることや、管理職・上位職に対する不安要素は性別を問わないものが多いことなどの意識共有を図ることができた。また、若手の男性教員からも上位職登用に関するセミナーを希望する声が上がっていることから、次年度以降、対象範囲を広げた実施を検討している。



懇談会の様子（上；写真）とメンチメーターを用いた意識調査の結果（下；スライド）

北見工業大学の取組

ダイバーシティ事業推進に係る役員と女性教員等の懇談会

女性教員が大学の研究推進戦略を理解し研究マネジメントの視点を獲得するとともに、本学のダイバーシティ推進活動の推進に向けた意見交換を行うため、学長・理事と女性教員等の懇談会を実施した。

- 日時 2021年9月30日 10:30～12:15
- 対象者 北見工業大学所属女性教員及びダイバーシティ推進室員
- 場所 北見工業大学～第1会議室
- 参加者数 12名
- 実施主体 北見工業大学ダイバーシティ推進室

活動内容・報告

まず、総務担当理事から本学のダイバーシティに関する取組について説明があり、ダイバーシティ推進室を中心として取り組んできた内容について紹介があった。引き続き研究担当理事より令和4年4月に設置する国立大学法人北海道国立大学機構の研究戦略に関する説明がなされた。特にオープンイノベーション・センターを中心とした組織的な研究推進及び三大学連携の研究プロジェクトについて現時点での成果を含めて説明がなされた。その後は学長も交えて、女性教員の採用促進のための方策や研究環境の整備等について積極的に意見交換が行われた。



株式会社アミノアップの取組

女性研究員と会社トップ（社長）との個別面談

当社では半年に1度、社長と女性研究員による個別面談が実施されている。面談ではキャリア形成やその実現について話し合い自律的な成長を促す機会となっている。また、女性研究員の活躍をサポートするための相談窓口としての役割も果たしている。

- 名称 2021 年度 上期 社長面談
- 日時 2021 年 11 月 29 日～ 30 日
- 対象者 株式会社アミノアップ 研究部在籍の女性研究員
- 場所 株式会社アミノアップ～ 1 階会議室
- 参加者数 4 名

活動内容・報告

2021 年度 1 回目となる個人面談は 2 日間の日程で実施された。1 名当たりの面談時間は 10 分で行われた。今回の面談では各女性研究員の中長期的なキャリア形成について話し合うことができた。「子育てと仕事の両立」や「ワークライフバランス」についても意見交換が行われ、既に運用されている時差出勤制度や時間有給休暇制度が活用されていることがわかった。産後・育児休業から復帰した女性研究員からは弊社の子育て支援体制充実化のヒントとなる貴重な意見を聴くことができた。



女性研究者の裾野拡大に向けた取組・その他

連携機関全体の取組

KNIT a Network ! ロールモデル座談会 / ロールモデル紹介番組

2020 年度に引き続き、KNIT 連携機関に所属する研究者や大学運営に携わっている方をゲストに迎え、暮らしやキャリアについてお話いただく本企画を今年度もオンラインで 7 回開催し、計 17 名の方にゲストとしてご協力いただいた。

(※ 2020 年度は第 1 回～第 12 回まで開催)

今年度は、KNIT 連携機関に所属する企業で働く研究者、北大で研究者として働く男性の家事や育児の話、海外でのライフイベントの経験がある研究者などをゲストに迎え、キャリアや人生の選択における多様性を発信した。

- 開催頻度 おおむね月 1 回 (木曜日)
- 対象者 一般公開 (主に KNIT 連携機関に所属の方)
- 開催方法 オンライン配信 (Zoom)
- 申込・参加費 要事前申し込み、無料

<開催履歴> (ゲストの所属および肩書は、配信当時現在のもの)

第 13 回「大塚賞スペシャル第 1 回：

北海道大学大塚賞とは？大塚先生にインタビュー」

- 日時 2021 年 5 月 27 日 12:20 ~ 12:50
- ゲスト 北海道大学 名誉教授
新渡戸カレッジフェロー 大塚 榮子 先生
北海道大学 高等教育推進機構
新渡戸カレッジ教育研究部
特任准教授 繁富 (栗林) 香織 先生
- 参加者数 約 40 名

北海道大学大塚賞は、本学における男女共同参画事業の一環として研究者を目指す優秀な女子学生に授与される。毎年 3 月に執り行われる受賞式に関連して、“大塚賞スペシャル”と題した全 2 回のロールモデル紹介番組を企画した。第 1 回は、名前の由来となっている北海道大学名誉教授大塚榮子先生のインタビュー動画を配信した。

配信は繁富 (栗林) 先生と共にお届けし、繁富 (栗林) 先生のキャリアやライフプランのご経験もお話いただいた。

研究者交流会 Online
KNIT a Network!
第13回
ロールモデル座談会
@Zoom
2021.5.27(Thu)
12:20-12:50

★テーマ
2020年度 大塚賞スペシャル 第1回
2021年度最初のロールモデル座談会は、“大塚賞スペシャル”と題して、全2回のプログラムでお届けします。北海道大学では、男女共同参画事業において研究者を目指す優秀な女子学生を表彰するとして、“大塚賞”を2000年より実施しています。今回は、大塚賞の名前の由来でもある北海道大学新渡戸カレッジフェローである、新渡戸カレッジ教育研究部 特任准教授 繁富 (栗林) 香織先生とのお話です。北海道大学新学第1期生として入学されたから研究者として活躍されている今日までのお話、そして私たちへのメッセージを聞かせてください！

インタビューゲスト
北海道大学 名誉教授
新渡戸カレッジフェロー
大塚 榮子 先生

スタジオゲスト
北海道大学 高等教育推進機構
新渡戸カレッジ教育研究部
特任准教授
繁富 (栗林) 香織 先生

詳細・お申し込みはこちらから！
<https://bit.ly/3vN1a5H>

主催：北海道大学 学務本部
ダイバーシティ 研究推進推進室
<https://knit.synthesizer-hokudai.ac.jp/>
協力：北海道大学 学務部 学生支援課

第14回大塚賞スペシャル第2回：

2020年度北海道大学大塚賞受賞者インタビュー

- 日時 2021年6月3日 12:00～13:00
- ゲスト 2020年度北海道大学大塚賞受賞者7名
- 参加者数 約40名

大塚賞スペシャル第2回は、農学から獣医学まで様々な分野で博士号を取得し、2020年度大塚賞を受賞された7名にインタビューした様子を配信した。それぞれの研究テーマに関心を持った経緯や、博士号取得後のキャリアについて等お話をいただいた。

第13回、第14回で配信した大塚 榮子先生と2020年度大塚賞受賞者の皆様のインタビュー動画はRee-D WEBサイトで公開している。

動画視聴ページ：

<https://knit.synfoster.hokudai.ac.jp/article/2624>

研究者交流会 Online
KNIT a Network!
第14回
ロールモデル座談会
@Zoom
2021.6.3(Thu)
12:00-13:00

★テーマ
2020年度 大塚賞スペシャル 第2回
2021年度大塚賞のロールモデル座談会は、「大塚賞スペシャル」と題して、各研究のプログラムでお届けします。
お持ちの6月3日は、2020年度大塚賞を受賞した7名の皆さん、それぞれの研究テーマについてお話を伺います。それぞれの研究テーマについてお話を伺います。それぞれの研究テーマについてお話を伺います。
大塚賞を受賞した7名の皆さん、それぞれの研究テーマについてお話を伺います。それぞれの研究テーマについてお話を伺います。それぞれの研究テーマについてお話を伺います。

インタビューに協力いただいた受賞者のみなさま

農学	大塚 榮子さん	工学部	関 乃 希 さん
理学部	大谷 祐 希 さん	理学部	菅 森 曜 さん
生命科学研究	藤 井 雅 彦 さん	生命科学研究	藤 井 雅 彦 さん
石原 すみれ さん		石原 すみれ さん	

詳細・お申し込みはこちらから！
<https://bit.ly/3f5sqTl>

主催：北海道大学人育成本部
ダイバーシティ研究環境推進室
<https://knit.synfoster.hokudai.ac.jp/>
協力：北海道大学学務部学生支援課



第15回「企業での研究生活といろいろキャリア ～北海道で研究開発する株式会社アミノアップ編～」

- 日時 2021年7月29日 12:20～12:50
- ゲスト 株式会社アミノアップ 研究部
生物化学研究室 研究員
高橋 麻起子 さん、大角 有里沙 さん
- 参加者数 約25名

企業で研究に携わるロールモデル紹介として、KNIT連携機関で協働する2社に協力をいただき企画した。第1回目は、株式会社アミノアップの研究部に所属する研究員のお二人をゲストに迎え、現職に至るまでの人生におけるターニングポイントと仕事がある日と休日の1日の過ごし方について伺った。さらに、大学と企業の研究活動の違いや、お2人が考えるそれぞれの面白さについてもお話をいただいた。

KNIT a Network!
ロールモデル紹介番組
2021年度テーマ MY LIFE

企業での研究生活と
いろいろキャリア
～北海道で研究開発する株式会社アミノアップ編～

7/29(Thu)
12:20-12:50

株式会社アミノアップ
研究部 生物化学研究室 研究員
高橋 麻起子 さん
大角 有里沙 さん

KNIT a Network! ロールモデル紹介番組とは、研究に携わりたい・今更なる成長、いろいろな人の人生から、キャリアや働くことの参考にできる様々な事例を紹介する番組です。

お申込はこちらから→
申込締切：7/29(Thu)10:00

<https://bit.ly/3x0DwR>

主催：北海道大学人育成本部
ダイバーシティ研究環境推進室
<https://knit.synfoster.hokudai.ac.jp/>
協力：北海道大学学務部学生支援課

第16回「企業での研究生活といろいろキャリア ～多様な拠点で事業を展開する日東電工株式会社編～」

- 日時 2021年8月26日 12:20～12:50
- ゲスト 日東電工株式会社 全社技術部門核
酸医薬開発本部企画部企画グループ
課長 松縄 彩子 さん
- 参加者数 約30名

企業で研究に携わるロールモデル紹介の第2回目は、KNIT 連携機関である日東電工株式会社に勤務されている松縄さんをゲストに迎えて配信した。現職に至るまでの人生のターニングポイントでは、研究職から企画職へと配属が変わった経緯、結婚・出産とその後の仕事の変化、その中で松縄さんの中にあった悩みや、悩みを乗り越えた経緯をお話いただいた。

KNIT a Network!
ロールモデル紹介番組
2021年度テーマ MY LIFE

**企業での研究生活と
いろいろキャリア**
-多様な拠点で事業を展開する日東電工株式会社編-

8/26(Thu)
12:20-12:50

日東電工株式会社
全社技術部門核酸医薬開発本部
企画部企画グループ 課長
松縄 彩子 さん

KNIT a Network! ロールモデル紹介番組とは、
研究に携わるいろいろな人の生活、いろいろな人の
人生から、キャリアや暮らしの参考になるTIPSを
提供するオンライン配信企画です。

お申込はこちらから→
申込締切: 8/26(Thu)10:00
<https://bit.ly/3eak0z>

KNIT 北海道ダイバーシティ4部局連携推進ネットワーク
北海道大学大学院先端生命科学部 大学院工学研究科 工学系領域 准教授 三村 竜之 先生
<https://knit.applinkster.net/knit.ac.jp/>

第17回研究者座談会「意外とやってる!?男性の家事、育児」

- 日時 2021年9月16日 12:00～13:00
- ゲスト 室蘭工業大学 ひと文化系領域
准教授 三村 竜之 先生
北海道大学 大学院先端生命科学部
助教 塚本 卓 先生
- 参加者数 約40名

第17回は、異分野 meetup 2021 (41 ページ参照) と連携したスペシャル企画として、KNIT a Network! 初の男性ゲスト2名をお迎えし、男性視点からの家事、育児、研究についてお話を伺った。研究者の道を歩み始めた経緯、結婚、パートナーの妊娠・出産、アカデミックポスト獲得やライフイベントによる生活の変化もお話いただいた。

KNIT a Network!
研究者座談会
2021年度テーマ "MY LIFE"

**意外とやってる!?
男性の家事、育児**

これまで女性ゲストの人生や日常生活、組織についてお話を聞いてきました。今回は、パートナー視点からの家事、育児、研究との両立、そして人生についてお話を伺います。

9/16(Thu)
12:00-13:00

室蘭工業大学 大学院工学研究科
ひと文化系領域 准教授 **三村 竜之 先生**
北海道大学 大学院
先端生命科学部 助教 **塚本 卓 先生**

KNIT a Network! ロールモデル紹介番組とは、
研究に携わるいろいろな人の生活、いろいろな人の
人生から、キャリアや暮らしの参考になるTIPSを
提供するオンライン配信企画です。

お申込はこちらから→
申込締切: 9/16(Thu)10:00
<https://bit.ly/3mQJQR>

KNIT 北海道ダイバーシティ4部局連携推進ネットワーク
北海道大学大学院先端生命科学部 大学院工学研究科 工学系領域 准教授 三村 竜之 先生
<https://knit.applinkster.net/knit.ac.jp/>

**第 18 回研究者座談会「海外で迎えるライフイベント
—海外で出産、子育て、家族で海外へ引越し。
住むところは日本だけではないのだ!!—」**

- 日時 2021 年 10 月 21 日 12:10 ~ 12:55
- ゲスト 北海道大学大学院農学研究院
准教授 加藤 知道 先生
北海道大学大学院医学研究院
講師 小林 純子 先生
- 参加者数 約 25 名

第 18 回は、ロールモデル紹介番組初、視聴者からのリクエストテーマを企画した。配信終了後に参加者へ配布されるアンケートの中にある“今後取り上げて欲しいテーマ”の質問に、“海外でのライフイベント”という回答をいただいたことがきっかけだった。そこで、家族で海外留学やライフイベントの経験をした 2 人の先生をゲストにお迎えし、家族で留学することとなった経緯や、お 2 人の海外での子育て経験、そして留学するにあたって事前に調べておきたい健康保険のことなど詳しくお話いただいた。

KNIT a Network! ロールモデル紹介番組
2021 年度テーマ "MY LIFE"

海外で迎える ライフイベント

—海外で出産、子育て、家族で海外へ引越し。
住むところは日本だけではないのだ!!—

留学や研究滞在で海外へ行くチャンスと自分のプライベートや
パートナーとの将来を考えた際の海外へ移ることもあってもいいですね。
その際どうする? 今回は、家族での海外留学やライフイベントの
経験についてお話を伺います。

10/21 (Thu)
12:10-12:55

ゲスト

北海道大学 大学院
農学研究院 准教授
加藤 知道 先生

北海道大学 大学院
医学研究院 講師
小林(仁尾) 純子 先生

KNIT a Network! ロールモデル紹介番組とは、
研究に関わらない若い世代の学生、社会人の人
の人生から、キャリアや暮らしの参考になるTIPSを
提供するオンライン番組です。

お申込はこちらから→
申込締切: 10/21 (Thu) 10:00
<https://bit.ly/3D6ebcd>

北海道ダイバーシティ研究開発推進ネットワーク
北海道大学大学院農学研究院 農学研究院 准教授 加藤 知道 先生
<https://knit.synfoster.hokudai.ac.jp/>

研究に関わらない若い世代の学生、社会人の人
の人生から、キャリアや暮らしの参考になるTIPSを
提供するオンライン番組です。

お申込はこちらから→
申込締切: 10/21 (Thu) 10:00
<https://bit.ly/3D6ebcd>

**第 19 回「学んで働いてまた学ぶ。
—社会に出てからの大学院進学—」**

- 日時 2021 年 12 月 2 日 12:15 ~ 12:55
- ゲスト 北海道大学 環境健康科学研究
教育センター 特任講師
アイツバマイ ゆふ 先生
- 参加者数 約 30 名

第 19 回目は、キャリアや人生の選択における多様性に関連して学ぶタイミングの多様性を紹介する企画とした。大学卒業後に就職し、仕事の中で出会った課題を探究するために大学院へ進学した経験を持つ先生をゲストにお迎えし、大学院へ進学するにあたっての準備やライフイベントの経験をお話いただいた。

KNIT a Network! ロールモデル紹介番組
2021 年度テーマ "MY LIFE"

学んで働いてまた学ぶ。

—社会に出てからの大学院進学—

暮らしの中で色々な希望や選択の中から一つ選ぶとき、分岐点は誰にでもあると思います。
今回はその中の「学ぶタイミング」に焦点をあてます。
大学を卒業して働き、その後大学院へ進学した先生をゲストにお迎えして、
大学院へ進学するまでのことや今の研究を専門とするまでのいきなりなど、
学びの分岐点についてお話を伺います。

12/2 (Thu)
12:15-12:55

ゲスト

北海道大学 環境健康科学研究教育センター 特任講師
アイツバマイ ゆふ 先生

お申込はこちらから→
申込締切: 12/2 (Thu) 10:00
<https://bit.ly/3ny5Dr2>

KNIT a Network! ロールモデル紹介番組とは、
研究に関わらない若い世代の学生、社会人の人
の人生から、キャリアや暮らしの参考になるTIPSを
提供するオンライン番組です。

北海道ダイバーシティ研究開発推進ネットワーク
北海道大学大学院環境健康科学研究教育センター 特任講師 アイツバマイ ゆふ 先生
<https://knit.synfoster.hokudai.ac.jp/>

研究に関わらない若い世代の学生、社会人の人
の人生から、キャリアや暮らしの参考になるTIPSを
提供するオンライン番組です。

お申込はこちらから→
申込締切: 12/2 (Thu) 10:00
<https://bit.ly/3ny5Dr2>

全ての回において、詳細なレポートをWEBサイトで公開している。
<https://knit.synfoster.hokudai.ac.jp/article/tag/rolemodel>



北海道大学の取組

高校生対象の取組

<大学進学相談会への参加>

女子生徒の理系進学選択を促進するために、高等学校等で開催された進学相談会に参加した。

- 学校名 藤女子中学校・高等学校
- 日時 2021年10月13日 14:25～16:00
- 対象 3年生（中学3年110名） 4年生（高校1年120名）

<オンライン/キャリア講演会>

- 学校名 札幌日本大学高等学校
- 日時 2021年10月25日
- 講師 北海道大学大学院生命科学研究院
助教 石原すみれ氏
北海道大学大学院工学院
博士後期課程 岩井愛氏



活動内容・報告

札幌日本大学高等学校の生徒を対象に、北海道大学の女性研究者2名によるキャリア講演を行った。講師からは社会へ繋がる高校・大学生活や、北大進学を決めるまでの紆余曲折についてお話しいただき、進路決定に悩む高校生にとって大いに参考となった。

<女性研究者・女性大学院生による研究やキャリア、大学生活に関する懇談会>

- 学校名 北海道札幌啓成高等学校
- 日時 2021年11月26日

活動内容・報告

北海道札幌啓成高等学校の生徒を対象に、キャリア・大学生活に関する懇談会を開催し、北海道大学ダイバーシティ研究環境推進室の教員が参加した。また RinGS※メンバーによる座談会もあり、生徒達からは悩みや現役大学生に聞いてみたい事など、多くの質問が寄せられた。

※ RinGS：Rikei Girls in Science。北大理系女子コミュニティのこと。



室蘭工業大学の取組

キャリア形成のためのランチタイムセミナー

女性研究者の裾野拡大をめざし学生を対象に行うランチタイムセミナーの2021年度開催状況は以下の通りである。

- **名称** キャリア形成のためのランチタイムセミナー 第15回
- **日時** 2022年1月21日 12:00～13:00
- **対象者** 室蘭工業大学の学部学生・大学院生 他
- **場所** Zoom ウェビナーによるオンライン開催
- **参加者数** 51名
- **講師** コニカミノルタ QOL ソリューションズ株式会社
取締役 吉田 明子 氏
- **実施主体名** 室蘭工業大学男女共同参画推進室

活動内容・報告

大手企業からの転職経験を持つ、コニカミノルタ QOL ソリューションズ株式会社 取締役の吉田 明子氏に、これまでのキャリアを振り返り、心理学で提唱されている「計画的偶発性理論」の観点から、目の前の物事に全力で取り組むことで、次のチャンスをつくり出すことの大切さについてお話いただいた。

当日は51名の参加があり、参加者からは「吉田さんの生き方に大変刺激を受けました。少しでもチャレンジする心を持ち続けるようにしたいと思いました。」などの感想が寄せられ、好評のうちに終了した。



吉田 明子 (コニカミノルタQOLソ...

キャリア形成のためのランチタイムセミナー 第15回

キャリア形成のためのランチタイムセミナーは、学生が今後のキャリアプランを考えるために参考となる情報を提供するものです。
今回は、コニカミノルタ QOL ソリューションズ株式会社 取締役 吉田 明子 氏を講師にお迎えし、現在の仕事を選んだ経緯やこれまでの自身のキャリアについて語っていただきます。

「一面面白いと思うことで、
負けていける人になるために」

講師
コニカミノルタ QOL ソリューションズ
株式会社 取締役
吉田 明子 氏

日時 令和4年 1月21日(金) 12:00～13:00

場所 ZOOM によるオンラインセミナー (事前申込制)

対象 本学の学部学生・大学院生 他

※詳細 はこちらのURLから
<http://www.muroran-it.ac.jp/uc/ucmp/mt020121.htm>

お問い合わせ
TEL 043-46-5018
E-mail ufh@mmn.muroran-it.ac.jp
URL <https://www.muroran-it.ac.jp/uc/ucmp/mt020121.htm>

室蘭工業大学 男女共同参画推進室

北見工業大学の取組

次世代研究者のための講演会

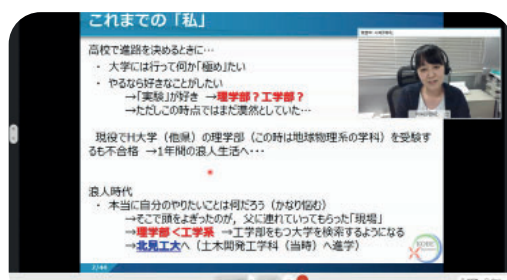
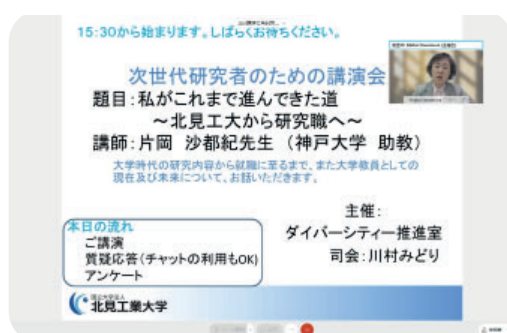
社会で活躍する若手研究者に自身の体験を交えて研究者生活を語っていただくことで、本学学生及び周辺高校の生徒に研究及び研究職の魅力を理解してもらうための講演会を開催した。

- **日時** 2021年5月27日 15:30～16:45
- **対象者** 北見工業大学所属学生・教職員、オホーツク管内高校の生徒等
- **場所** オンライン：Webex
- **参加者数** 93名
- **講師** 神戸大学大学院工学研究科 市民工学専攻 助教 片岡 沙都紀氏
- **実施主体** 北見工業大学ダイバーシティ推進室

活動内容・報告

本学の卒業生である神戸大学 片岡 沙都紀 助教に北見工業大学時代の学生生活、自身の研究者となるまでの道のり、神戸大学での研究者生活について具体的に説明していただいた。特に、大学院進学や研究職への就職などに迷ったときに、自分のやりたいことを考え、「やればなんとかなる」と進路を決断したことなどは参加した学生にも強く印象に残ったようであった。アンケート結果からも、「研究者という職業を目指すことを少し身近に感じられました」、「今後もぜひ、今日のような会を開いていただきたい」という声が多数寄せられた。

また、今年度は周辺高校からも複数人の参加があり、研究者のすそ野拡大に有意義な講演会となったことから、今後も継続する方針である。



次世代研究者のための講演会

5/27 (木) 15:30-16:45

※Webexによるオンライン講演会

講師 神戸大学大学院工学研究科
市民工学専攻 助教 片岡 沙都紀 氏

題目 私がこれまで進んできた道
～北見工大から研究職へ～
大学時代の研究内容から就職に至るまで、
また大学教員としての現在及び未来について、
お話いただきます。

対象 本学学生及び周辺高校の高校生

備考 視聴用のURLは開催日が近くなりましたら、
キャンパススクエアで別途案内いたします

主催 ダイバーシティ推進室

【問合せ先】
北見工業大学総務課人事担当
E-mail : soumuo6@desk.kitami-it.ac.jp

オープンキャンパス リケジョの輪

女性研究者裾野拡大の第一歩となる女子高校生の理系進学を目的に、本学女子学生による自身の研究活動の紹介や相談対応を通じて、工業大学への進学に対する不安解消及び学生生活について理解を得るための企画を実施した。

- **日時** 2021年7月31日 11:00～12:30
2021年8月1日 11:00～12:30
2021年8月21日 11:00～12:30
- **対象者** 北見工業大学オープンキャンパス参加者
- **場所** 北見工業大学～A102 講義室
- **参加者数** 30名
- **実施主体** 北見工業大学ダイバーシティ推進室

活動内容・報告

本学の学部4年生から大学院に在籍する女子学生が自身の研究紹介、サークルやアルバイト、友人との旅行などの大学生活などを高校生や同席した保護者に分かりやすく発表を行い、その後参加者からの質問に回答する形式で実施した。高校生や保護者からは研究内容の詳細や、現在取り組んでいる研究テーマと将来就きたい仕事との関係、また寮を含めた住環境についての質問があった。女子学生が各質問に対して的確に回答することにより、本学での女子の学生生活の実態が理解でき安心した様子であった。アンケートからも「女子が少ないということに不安があったが、先輩たちがいきいきしていて不安が解消された。」「女子学生が少ないけど、すごく楽しそうだった」などの感想があり、工業大学への進学に対する不安解消及び学生生活への理解の一助となった。





北見工業大学 オープンキャンパス

OPEN CAMPUS 2021

TIME SCHEDULE

9:00	受付
9:30	大学説明会 第1部
10:00	分科会
10:15	分科会 第2部
11:00	分科会 第3部
12:00	ランチタイム
12:30	大学説明会 第2部

今年度は4回開催します 各回100名限定 開催時間 9:00~13:30

第1回	第2回	第3回	第4回
7/31	8/1	8/21	8/28
土	日	土	土

下記サイトから、7/15(木)までに申し込ください。

オープンキャンパスの申込はコチラ <https://goose.office.kitami-it.ac.jp/>

〒950-8587 北見市金沢町1-16番地
Tel 0157-26-9116 <https://www.kitami-it.ac.jp/>

日東電工株式会社の取組

1day workshop（女性限定）を開催

- 日時 2022 年 1 月 13 日 13 : 00 ~ 18 : 00
- 対象者 2023 年卒大学生・大学院生（女性）
- 場所 完全オンライン (Zoom)
- 参加者数 約 140 名
- 実施主体 日東電工株式会社

活動内容・報告

女性を含む多様な母集団形成を目的に、2023 年卒業予定の（女性）大学生と大学院生に向けて、ワークショップを実施。第 1 部は、就職活動での「会社選びの軸・ポイント」「どのような働き方・会社が合うか」等への気づき、将来のキャリアを考える機会の提供、第 2 部は、Nitto の女性社員が登壇のうえ、Nitto の働き方や社風などの等身大の Nitto を知っていただく機会を提供した。

Knit a network
for diversity and inclusion toward innovation

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

**2021 年度
活動報告書**

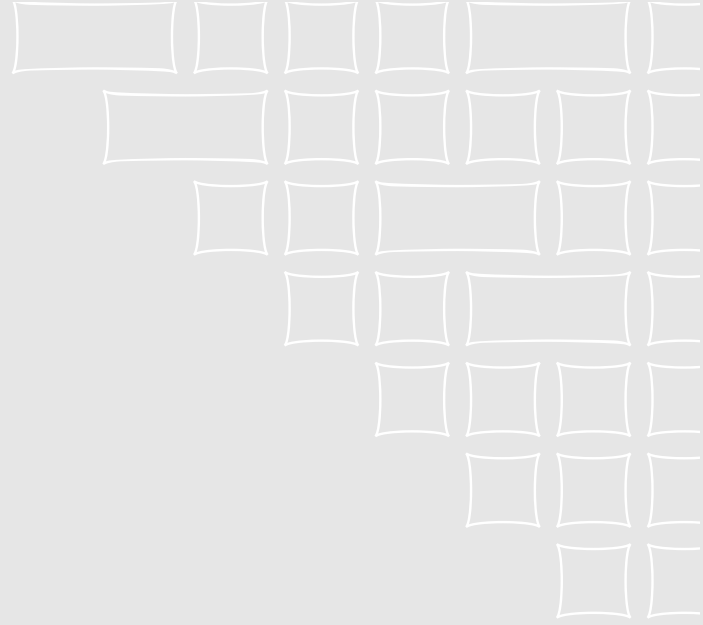
発行：2022 年 3 月

発行者：北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク

（北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見

工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社）

お問い合わせ：knit@synfoster.hokudai.ac.jp



Knit a network
for diversity and inclusion toward innovation

